

座談会

山口大学に期待すること

新入生が入学して早3ヶ月が過ぎ、各学部ではフレッシュマン・セミナーも開催されました。少し落ち着いたこの時期に、新入生が山口大学の教養教育・専門教育に何を期待し、どのような教育を希望しているかを、教育担当の丸本卓哉副学長の司会のもとに語ってもらいました。

今の山口大学の教育体制が、学生が望む教育サービスにどの程度まで応えられているか、今後、どのような教育システムが必要かを考える材料となることを願っています。

対談者：丸本 卓哉副学長（教育担当）、中川 信子さん（人文学部）、三輪 直子さん（教育学部）
佐藤 甫君（理学部）、岡田 清吾君（医学部）、松尾 梓さん（農学部）



教育担当
丸本 卓哉副学長

丸本 教育担当の丸本です。皆さん方が山口大学に入って2カ月過ぎ、やっと大学に慣れてきて、大学の授業、クラブ活動も含めてキャンパスライフがスタートしたところです。まだ、よくわからないところもあるかと思いますが、入ってきた直後のフレッシュな感覚がこのテーマの的を得ていると思います。

皆さんもご存じのように、今まで国立大学というのは社会と余り密接につながってなかった点があった訳ですが、法人化を前にして地域社会とのつながりだとか、あるいは学生さんとのコミュニケーションをもっと高めなければならぬ状況になっています。私

たちも共通教育をいかに充実したものにするか、また、皆さん方の意見を聞いていかに改善するかということに一生懸命取り組んでいるところですが、教育というのは目に見えないところがあるものですから、実態がなかなかつかめなということもあります。

今回、広報委員会で企画いただきましたので、皆さん方の忌憚らない意見をお聞きして、大学側としても、皆さんが本当に楽しく、しかも目的に沿って勉強していただける環境をつくりたいと思っています。皆さん方は、今は共通教育の部分ですから、専門教育については、まだ授業を受けていないんじゃないかと思うんですけど、皆さんの期待も含めてお話ししたいと思います。

事前に配られたアンケートには、大きく分けて3つの項目があります。まず一つ目は大学・学部の選択要因。それから二つ目は入学前に思っていたことと大学に入ってからギャップです。そして三つ目は総合的な大学満足度。

これは、大学生活全般のほんの一部しか皆さん体験しておられませんが、難しいとは思いますが、このアンケートの項目の中で、自分が考えていたことと、どういった違いがあるかも含めて総合的にどの程度の満足感があるのかをお話しいただければと思います。まず一つ目の大学・学部の選択要因ですが、今日は5人の方が参加されておられます。最初に教育学部の三輪さんからお話しいただけますか。



教育学部
三輪 直子

三輪 私が山口大学を選んだ理由ですが、私は山口県出身でずっと山口に住んでいて、大学がいつも身近にあり、小さい頃から山口大学が意識の中にありました。高校

生になって一時期は地元を離れようという気持ちにもなりましたが、やはり経済的なことと山口の環境が好きなので山口大学を選びました。

丸本 教育学部は、教員養成課程と教員にはなれないいわゆるゼロ免との二つの課程があります。三輪さんはどちらの課程ですか？

三輪 教員養成課程です。

丸本 ということは先生になりたいというのが大きな目的ですか。

三輪 はい。

丸本 今、教育学部問題も全国的に話題になっています。少子化で教員数が余ってきますので、教員の資格は取れないけども教育学部で勉強する方も半分以上ですよ。その中であえて教員になりたいという動機をお聞きしたいと思います。例えば子供さんが好きだとか、あるいは教員になりたいという強い希望があったのでしょうか？

三輪 特に何があったから教員になりたいと思ったのではなくて、小さい頃から先生を見ていて、とてもやりがいを持って生徒に接していらっしゃる姿を見て、大人になっても子供と一緒に成長できる先生という職業が羨ましくみえていました。

丸本 教育学部の選択肢については迷いはなくて自分で選んだということですね。

三輪 はい。

丸本 二つ目もお聞きます。入学して2カ月で、今の段階では共通教育が中心ですけど、入学前の期待とギャップがあると感じたことはありますか？ 貴女の回答では、大きなギャップは授業に手応えがないというのがありますが、これは我々教官側にとっては非常に大きな問題です。なぜ手応えがないのでしょうか？

三輪 教育に関する授業が沢山あって、大学の授業というのは高校の授業と違って学問で暗記ではなく、自分で吸収しようという意欲がないと身にならないので手応えがありません。そういう面では高校の授業というのは、ある程度強制という面で自分にとって目的意識があったと感じています。

丸本 高校の場合、先生からこれが受験に必要なだと言われたことを強く受けて勉強していた。それが大学に来たら、逆に自由度が増して手応えがないと感じたのかな？

三輪 そうです。

丸本 教わっている内容そのものが、どうも希薄だとか、先生の授業は全く面白くないとか、それは共通教育では余り感じませんでした？

三輪 教室が大きいと結構しゃべったりする人とかもいて先生の声が聞きづらかったり、何を教わっているのかわからないこととかもあって、そういうところで内容に満足できない授業もあります。

丸本 高校の授業システムと大学の授業システムは、私達が考えても180度に近いぐらい違いますね。確かに先生方が一生懸命教えようとしますが、やはり手取り足取りというわけにはいきません。やはり学生さんそのものが自分から勉強する姿勢にならないと、なかなかそのギャップは埋まらないと思います。 医学部の岡田さんも、紹介いただきたいと思います。

岡田 医学部を志望したというのは、医師になるためです。山口大学を選択した理由は宇部出身で、それで、学校の通学途中で横目に附属病院を眺めていましたので大学選択はもう迷わず山口大学と決めていました。なぜかと改めて聞

かれるとはっきりと答えられませんが、それとやはり山口が好きというのがあったと思います。

丸本 医学部に入りたいという大きな目的ですね。



医学部
岡田 清 吾

岡田 そうです。

入学後のギャップですけど、髪の毛の黒い人より黒くない人の方が多いというのが衝撃でした。医学部というのはみんな髪が黒くてガリガリ勉強ばかりしている集団だと思っていましたが、思ったより変な人が多くて、勉強もしますが、きちんと体も鍛えて、どちらかというとスポーツマンが多かったのですごく衝撃でした。

丸本 それは医学部の先生方という意味ですか？

岡田 先生方も先輩方もそうです。

医学部は入学時に強制的に部活に入らされるんですよ。みんな嫌がりますが、だんだん面白くなってきて、結局みんな運動は熱心に行っています。

丸本 岡田さんは、ちなみに何かクラブに入っていますか？

岡田 水泳部です。

丸本 医者は人の病気を診る立場だから、人間の総合的なものがわからないと本当の名医にはなれないと思います。ただ医療の技術だけがよくても名医にはなれない。そういう意味では、医学部が課外活動も含めて総合的に体験・習得しなさいというのは正解だと思います。

講義が面白くないと回答していただきますけどこれはどういう意味ですか。共通教育についてということですか？

岡田 専門科目が今は少ないので、もっと医学系の授業がないと刺激がないというのが正直なところですよ。あと僕の通っていた宇部高校というのは、先生が一方的に授業をするのではなく、とにかく考えさせます。大学はどうしても人数が多いので、先生方とキャッチボールができないのが残念ですよ。一方通行過ぎるなと思うことがあります。

丸本 共通教育を習得して専門に突入した途端に少人数になりますね。しばらくは医学部全体としての授業が一部続くと思うんですけど、例えば、あなたが専攻で内科や外科の専門的な勉強をするときは本当に少人数でマンツーマンに近いような授業形態とか技術指導になっていくと思います。

共通教育から専門に入ったときのギャップも実は私が大学生のときも非常に感じました。そこにいった途端に、専門的になって、しかも勉強は大量に増えて朝から晩まで、詰め込まないとついていけない。特に、理系の方は実験が始まりますので毎日追まわられるという感じです。教養部時代はよく遊んだという実感が私にもあります。ですから高校の受験勉強でものすごく詰めたあとの教養部での勉強には落差を感じました。本当は大学に入ったら専門を早く勉強したいのに、その緩みを感じるというのは、皆さんも同じみたいですね。

医学部の岡田君だったら早く医学のことを勉強したいのだけど、例えば文学、語学あるいは哲学を教えられたりと、一見無駄に思えるんでしょうけど、共通教育とし

てはね、人間の全体を司る重要な核になる部分だと考えています。そのところは学年が上がってきたらわかって貰えると思っています。手応えがないということとイコールにならないと思います。

次に農学部で松尾さん、お願いできますか。

松尾 山口大学を選んだのは、尊敬する先生がいらして、将来その研究室に入りたいと思ったからです。

入学後のギャップですけど、高校の授業は黒板をカリカリ書く感じだったけど、大学は先生が言われたことを聞くだけで考えることが少ないし、数学みたいに何か自分で新しいことをひらめくとかいう授業ではない。もっと考える授業みたいなのがあるかなと思って入学したんですけど。

丸本 松尾さんの場合は自分が農学部を志望したのは、例えば偏差値で選んだのではなくて、農学部に行きたいという自分の希望で決めたということでその辺ははっきりしていますね。

もう一つは農学部の専門が早く勉強できればと思ったのに、一般教養ということで、希望の学問分野と違うというところに回答しているようですが、それも本当は農学系のことをもう少し早く勉強したいという裏返しかな。

松尾 はい、そうです。

丸本 理学部の佐藤君、どうでしょうか。

佐藤 入学後のギャップですけど、僕が回答したのはクラブ・サークルのことです。大学は自由時間が大量にあると思っていました。大学に入ったらみんな遊んでるっていうのを聞いていたから。でも、ひとり暮らしになると洗濯、自炊とか時間を結構取られます。クラブ・サークルにはいると

将来どんな人になりたいかとかそういうことを考える余裕がないような気がします。

丸本 必ずしもクラブに入らなくても、自分で時間を見つけてスポーツを続けるということは可能です。もう一つ、貴方のギャップの中で教官との交流が少ないとあります。このことをお聞きしたいのですが？



理学部
佐藤 甫

佐藤 授業は50人ぐらいで一人の教官です。教官もたまには教室に残って生徒と交流するんですけど、僕の場合、時間がないと言ってすぐ帰ったりするのでその機会を逃してしまいます。フレッシュマンセミナーのときには結構交流ありましたが、それっきりという感じです。

丸本 自分のクラスがあると思うんですけど、そこでの交流は少ないですか。

佐藤 少ないですね。

丸本 オフィスアワーというのがあって、勉強の相談事だけに行くんじゃなくて、今貴方が言ったように、スポーツのことで雑談でも、むしろ君の方から戸を叩けば、大多数の先生は相談に乗ってくれると思いますよ。

佐藤 なかなか研究室に入りづらいというのがあるんですよ。

丸本 時間帯は選ぶ必要はあります。例えばお昼休みの1時間のうちの前半か後半に絞ってアポイントを取っておくとか、午後の5時過ぎとか、それから場合によって

は休日でも、対応して貰える先生もいると思います。

上谷 皆さん、オフィスアワーというのをご存じです？

どの先生方も研究室の前にオフィスアワーといって何時から何時までならいつでもどうぞって表示が出ているはずですよ。先生によっては曜日、時間帯を決めてあります。是非、それを見つけて先生を訪問されたいかがでしょうか。

丸本 それでは人文学部の中川さん、どうでしょうか？



人文学部
中川 信子

中川 私は4年生なんですけど、3年前に入学してすぐにアメリカの大学に入りました。中学校のころから通訳になりたいという気持ちがすごく強くて。

山口大学を選んだ理由は、私は小郡に住んでるんですけど両親と相談して地理的な条件で決めました。でも、絶対にアメリカで先に英会話をマスターしてから、それから山口に帰ってまたやりたいことを見つけようと思って今は通っています。

丸本 ところで単位互換ですけど、今は昔と違ってかなり前向きに検討されています。他大学で取得した成績があれば検討するシステムがあると思います。たぶん、あなたのような例は今までは少ないかも知れませんね。だけど、是非諦めずに学部の方でアプローチしてください。

中川 はい。今は専門の方を生か

せていただいている、とにかく英語だけは取得します。

そこで入学後のギャップのお話ですけど。

丸本 講義が面白くない、授業に手応えがないと回答されていますが？

中川 アメリカのクラスはまず少人数なんです。日本では一応、専門教育を英語で取ってますけど、やはり英語専門にすれば人数が多い。先生に余り注目されてないコミュニケーションがないというのは問題です。私は通訳になりたいのでコミュニケーションを主に学びたいのです。私には必要のない英文学を取得しないといけなから、ちょっと不満もあります。それが、講義が面白くないというのに繋がっています。

丸本 1年生の間は、たぶんそういうことが多いと思います。今年から山口大学ではTOEICを取り入れています。多分、貴方は高得点者だろうと思いますけどそういう方はですね、もう基礎の部分は省略して、どんどんインテンシブな実学英語をやるようになってますから、是非そちらに進んでください。そしたら、ネイティブな先生もおりますから上のクラスにどんどん進める筈です。

中川 そうなんですけど、私の学部にはイギリスの先生しかいらっしゃなくて、私はどっちかというとアメリカの英語がやりたいんですけど。

丸本 アメリカの人もいると思いますよ。

中川 工学部にいらっしゃるみたいなんですけど。

丸本 その先生の指導が受けれる方法を相談してみてください。大学教育センターでは、語学センターをつくろうと検討しています。できれば来年の春からスター

トしたいと願っています。そして今までね、皆さんが高等学校、中学校で読み書き一生懸命やってきたけど、やっぱりそれでは本当のコミュニケーション英語はできていないんですね。これは英語だけに限らないで、私たちは、ドイツ語も中国語もハングル語も全部考えているんですけども。特に英語はこれだけ国際語になってきましたから山口大学では全員英語を必須にしたんです。そして、基礎をパスできるぐらいの実力がある人は、どんどん上に行きなさいというシステムを検討しています。あなたがいる間にできる筈ですから、少し期待をしてもらってもいいかなと思います。

やはり、特にアメリカと日本の教育のあり方というのは大分違うと思いますね。もともと中国などアジアから、日本は近代化するときにドイツから学問を入れましたよね。日本は非常に変革が早い部分と遅い部分があってね、教育問題の改善は非常に遅れたと私は思っています。今が改革の最中なんですね。だから、かなり変わってくると思いますけど。そういう意味で、特に中川さんが大きなギャップを感じられたかなと思ってます。アメリカはどこにおられて、どこの大学に行かれたんですか。

中川 ワシントンDCとチャールストンです。

丸本 私の方から質問ですが、アメリカの教育の良さ、あるいは問題点などがあつたら紹介いただけますか。

中川 例えば、もし自分の夢が最初から決まっていれば、もう1年生のときから専門科目が自由に取れるし、そういうところは魅力的でした。それから先生とコミュニケーションがすごくしやすい環境

というのがあって、やはりそれがよかったです。

丸本 日本では例えば、こういう教養科目、共通科目を42単位ぐらい取らなきゃいけませんよとなっていますけども、1年生のときから専門をやりだすと、そちらの方が、単位を取るのが少なくなるということはありますか？

中川 はい、そうですけど。

丸本 向こうも何単位までは取りなさいというのはあるわけでしょう。

中川 山口大学のようにはないです。

丸本 ない。どういうことだろ。向こうで教養は何単位ぐらいでしたか？

中川 40数単位くらいかな。

丸本 山口大学とあまり変わらないですね。そんなには変わらないですね。ただ、私たちが非常に困っていることはですね、学生は1年生で可能な限り単位を沢山取っちゃおうとするわけですね。履修届をたくさん出して、そして2年で遊ぼうと思うみたいです。ちょっとうがった見方かも知れないけど、保険をかけようと思って沢山取るんですよね。そうすると、たくさん授業に出ちゃうから、今度は疲れちゃって精力も分散しますから、成績がよくないのも出てきたりするわけですね。そうではなくて自分が本当に、勉強したいものを選別して集中してやって、余暇をうまくクラブ活動とか、先生との交流とか、別の方にも使えばいいんだけど。日本の学生はその点でちょっとバランスが崩れてるんじゃないかなという気がしてるんですよね。スポーツする人は、今度は逆にもう勉強そっちのけで、そればかりやっちゃおうと。それでも何とかトコロ天式で卒業できるというようなシステムが今まで

あったんだけど、今後はそうじゃないだろうと私は思っています。成績を厳格に評価して、もう少しきちっとした到達度をもった学生さんを外に出しましょうということを考えてます。

佐藤君はああいう言い方をしたけど、実はやっぱり数学をやりたかったというのは間違っていない、ただ大学の選択をどうしようかと迷いがあったとは思います。しかし、北か南の端っこに行つて、自分の生きざまを探そうかというのはあったんじゃないかなと思うんですけど。今日お集まりの皆さんは、自分がこういうことをやりたいというのを比較的しっかり持って大学に入った人だなあと、思います。その点ではむしろ驚きだったんですが。こういう人が山口大学に入つたのであれば、我々もうかうかしてはいられません。先生方の授業の改善を早急に確立しないといけないですね。従来、先生が一方的に自分の専門のところを学生に話して、質疑応答もないし、学生が何を考えているかもわからないままだ試験して、理解していない学生は落としたいというタイプの授業が多かったんですけど、これは改まっていくと思います。皆さんにもやっていただ

いたように、学生授業評価や教官の自己評価もしながら改善につなげていこうとしているんですが、一気によくなりませんよね。少しずつしかよくなりませんけど、皆さんのこういう声が一番先生方を動かす力になるんですよ。だから遠慮せずに、どしどし発言するべきだと思いますね。

よく日本人はプレゼンテーション能力が非常に低いと言われていいます。これは、子供のときから育つた環境があつて、人前でしゃべることがどうも苦手であるというのが歴史的にも文化的にもあるんじゃないかな。つまり、控えめな方がよいという文化があつて、それが影響してるんじゃないかと思つてるんですが、これは国際的に通用しませんね。たぶん中川さんは一番ご存じだと思います。発言しなかったら、ゼロと同じなんですよね。やはり何らかの意見を言う。考えてることを表現するということは、今からの社会では非常に重要だと思うんです。発言して、自分の考えを述べる、そしてまた、意見の違う人ともディスカッションして、自分の考え方のいいところや悪いところを知り、改善していくというようなシステムが大学では、特に問われなきゃ



いけない。先生方は自分のやっている専門については、自分が一番だというぐらいでないかね、やれないんですよね。皆さん方もそういう立場に今から入っていくと思うんですが、ぜひ、教育改善に資する提言はどんどんやっていただきたいと思っています。

最後の大学総合満足度、それからもう一つは、山口大学での教育を生かして、どのような卒業生になりたいですかという質問についてです。これはまだ入学したばかりで、難しいかなと思うんですが、総合的に見たときに、今の時点でどう考えているか、もう一度御紹介いただければと思います。三輪さんからどうでしょうか？

三輪 大学の満足度については、施設や設備は大変満足です。山口大学の近くに住んでいながら山口大学に来る機会がなくて、古くて余り設備がよくないっていう話を何となく聞いていたんですが。でも大学に入ってみたら十分満足できるというか、普通にビデオとかスクリーンを使った授業とか、そういうものもありますし。コンピュータを使った授業とか面白いと思いますし、図書館もパソコンが設置してあって、情報をすぐに取り寄せられるようになって、そういう面で設備はいいと思います。

先生方も忙しくてコミュニケーションが取れないというのはすごく残念なんですが、私は美術コースで、美術の先生方と話したりとかいう機会が少しはあって、皆個性的な先生方で、とても魅力を感じるし。そうですね、自分も作品をつくっていきたい。授業教育システムということで、さっきも話があったんですが、やはり今共通科目が多くて、結局、1週間に1時間ぐらいしか専門の美術を実技と

してやる時間がなくて、それが少し物足りないというか、早く先輩方のように自分の作品とか、そういうことを考えられるようになりたいなというのを思います。

丸本 そのうち、すぐなると思いますよ。個性的なものをつくる、美術作品をつくるためにもベースになるものを、今勉強してるんだというふうに考えればいいと思うんですけど。やはり皆さん方、ほぼ共通しているのは、ちょっと刺激が足りないということかな。

今、ITの話がちょっと出ましたけど、学生さんにはかなりの学部でパソコンの必携を促進しています。山大は、情報コンセントその他施設の整備率は全国でもトップです。皆さん方にうまく利用していただくための大学側の対応がまだ不十分ですけど、これもかなり改善されると思います。

岡田君、どうぞ。

岡田 情報コンセントがたくさんあるのは、とてもいいことだと思います。こちらの本学にいるときは余りパソコンを利用しないんですけど、医学部医学教育センターの副センター長の川崎先生がとてもコンピュータに長けた方なので、授業にどんどんパソコンを用いるような授業を、カリキュラムに組まれてます。せっかく買ったパソコンですから有効に利用したいなと思っています。

丸本 医学部が一番進んです。コンピュータを利用した授業もですけども、診療技術についても医療情報システムを使ってですね、どんどん授業がなされてます。今、山大の中では医学部がトップでしょう。ですから、ぜひ活用していただけたらと思います。

あと、満足度のところでは、やはり最初のギャップのところと一緒になってるかな、岡田君も。

もっと専門的な授業を早く受けたいなという気持ちでしょうかね。

岡田 前期の間は、火曜日に医学部の方に行くんですけど、それで、そのときは担任の先生に研究内容とか直に見せていただいたりしているので、それは刺激になります。

丸本 山口大学には、キャンパスが3つありますから、これは学生さんにも先生方にも大変な苦勞を強いております。そういう意味でも、コンピュータを使った遠隔授業だとかがもう少し充実すればいいなと思ってますけど、なかなかお金もかかることですから、一気に改善が進まないんです。しかし、山口大学は、国立大学の中では非常に整備がされ、模範になるぐらいの大学になってます。

松尾さんはどうでしょうか。



農学部
松尾 梓

松尾 私は図書館を日ごろからよく利用していて、パソコンを家から持ってこなくても置いてあるし、学校の授業でパソコンを持ってきたら、情報コンセントにつなげば、いろんな情報を取り寄せることができるし、あとレポートとかでも、いろんな資料を集めるのにも延滞なく活用できるし、図書館にはたくさんいろんな資料があって、レポート以外にも、自分の興味があることを調べたりもできて、すごく勉強になって嬉しいです。

丸本 松尾さんのアンケートでも留学・研修というか、そういう実

学的なことをもっと増やしてほしいという希望や専門分野をもっと早くやりたいというのがありますね。共通教育では楔形授業といってね、1年生のときにも専門に関するものを少し下ろしてるんですよ。学部の先生方はもっと専門の授業を下ろしたいと思っています。本当は、あなたたちの希望に沿ってドッと下ろしたい。ところが一方で、それをたくさん下ろすと、今中川さんの話にもあったように、役に立たないように見えるけど、人格形成や、専門をやるために本当にベースになる教養的なものがおろそかになるという不安をみんな持ってるわけなんです。ところで、今から7、8年前に全国的に教養部を潰しちゃったんですが山口大学でも教養部をなくしちゃったんです。各学部にいる先生方に共通教育をやってもらうというシステムになったんですけど、教養部がなくなったため、先生は、「自分はもう共通教育の先生じゃありません。」「専門の先生なんだけど共通教育に出ていて貢献してます。」という、立場になってしまったのね。すると自然に意欲が衰えてしまったんです。それで、今皆さんが言っている、「ちょっと何か気合が足りんなあ」というところが、僕は出るんじゃないかと思いますが、それも今改善をしつつあります。

もう一つは留学ですが、中川さんも言われたし、行こうという強い希望があればどんどんできますよ。例えばお金がないからというんであきらめなくてね、お金なくても行きたいんだがどうしたらいいかっていう相談をしてもらおうと、いろんなフェローシップを取るとか可能性ありますから。その突破口はないかと言ってね、先生の門を叩く。あるいは事務局の門

を叩く。今年度留学生センターもできましたから、そういうところを叩いてね、何か方法はないかと努力してみることが必要じゃないかということを強く感じてますので、ぜひ積極的に門を叩いてください。

佐藤さん、どうでしょうか？

佐藤 大学の設備は、かなり満足しています。図書館にしても先ほど言われたように、コンピュータとか、あと新聞。たくさん種類のものを全て見られるし。図書館では勉強もできるし、設備に満足してますね。

丸本 中川さんはアメリカから帰ってきて、そういう点でもギャップがひどいかも知れませんが、いかがですか？

中川 学習環境は、やはりアメリカと比べて、こちらの方が静かで勉強しやすいというのがあります。アメリカではすごくうるさいんですよ。授業中に喋ってる人もたくさんいるし。

丸本 みんな何か飲み物を持ったり、サンドウィッチ食べたりしながら授業受けている人もいるよね。

中川 そういう面はありますね。例えば私の場合は英語専門で、イギリスのネイティブの方がいらっしゃるので、すごく私には嬉しいというか、いいなと思うような点があります。それから選択科目なんですけど、結局、自分がしたくなくても、選択科目の中から、また好きなものを選べるというシステムはいいなと思って。

丸本 今年ね、コースカリキュラムを山口大学では全国で初めて導入したんですけど、大きなトラブルは今のところ生じてません。あのカリキュラムの説明がよくわからなかったという人も、一人回答していましたが、それに対して

何か違和感はありませんでしたか。コースがいっぱい並んで、段階別に、基礎、総説、展開と学んでいく順序があそこに示してあるんですね。最初に展開を取っちゃうと困るんです。やはり基礎から総説へと行きながら自分の能力を高めていって展開の難しい科目へと進んでいく。それを履修していくと、下方に履修単位要件表があって、これとこれを全部取っていくと全部卒業単位が揃うんだと1枚の表で見れるようにしたんですよ。従来は全部3冊、4冊と分厚い本を見ないとわからなかった。その点に対する皆さんの意見を、ちょっと聞きたいなと思ったんですけど。アメリカではね、幾つかの大学がこのコースカリキュラム制を取ってると思います。これは皆さん、まだ比較する能力がないかな。

あと1つ最後になりましたけど、就職というより、自分はどんな学生になりたいかとか、あるいは進路指導について何かありませんか。また、就職もそのうちどこに行くか、皆さんまだわからないでしょうけど、何か到達できそうな感じありますか。

中川さんは通訳になれそうかな。あれも資格が要るんでしょ？

中川 そうです。

丸本 同時通訳というのは大変だよな。目標に向かって邁進できそうですか。もし悩みが生じたら、いつでも相談ください。先生方、オフィスアワーを持っていますからね。ぜひ、戸を叩けば必ず先生方は応えてくれると思います。

先生方に、ちょっと一言というのがあったら、ぜひ紹介して下さい。

松尾 もっと先生方の研究の内容を、みんなの前に公表してもらいたいと思います。1年生の間にま

だやりたいことが決まってない人とかでも、興味を持つ先生のところに行きやすいし、それまで思ってたのとちょっと違ってても興味を持って、進んで勉強ができる環境になると思うんで、1年生のときに紹介をしてもらいたいと思います。

丸本 学部には全部インフォメーションがあります。

例えば、私は今土壌生化学という講義をしてるんですけど、研究では何をやっているのか研究テーマを一覧表にしています。だから農学部は学務係に行ってますね、松尾さんが、そういう情報をくださいって求めれば貰えます。1年生のオリエンテーションでそういうのを出してないのかも知れません。もしかすると2年生から専門に上がる時にだけ出して、1年生には出してないということかも知れませんね。先生方の研究テーマと、どういう専門で何をやってるのかという情報提供を1年生にも出せるように言っておきましょう。

松尾 テーマだけではわからないことがあるんです。そういうことを詳しく言っていただいたら、もっと聞きやすくなるんじゃないかなと思います。

丸本 わかりました。たぶん全体で説明会を持てというのは難しいかも知れないけども、テーマを見てこれは何か分からないと言ったら、そこへ行って「先生、何やってるんですか」と聞いてもらうと一番有り難いです。

岡田 プリントとかじゃなくて、口頭で。そういった方が、自分で目標を見つけ、それに向かっていくことができるようになるんじゃないかなと思うんですよ。

丸本 1年生のときが一番大事かも知れないね。私がいる農学部で

は、2年生に上がって専門に来る学生さんに、こういう専門があって、先生がこういう研究をしていますよというガイダンスを先生自ら出てきて説明するというをやっています。自分のところはこういう学生が3、4名ほしいんだ、ぜひ来てくれとガイダンスします。農学部しか私は詳しくありませんが、昔は教室や先生を選ぶのは、学生の希望と成績で分けていたのですが今は違います。どの先生のどのテーマがやりたいと。この研究のこのテーマがやりたいと言って学生が先生を選ぶようになってます。先生は学生に対して今年の卒論のテーマはこんなことを考えてるということを全部提示するんです。この中で、こういうことをやりたいと思う者は来てくれということで、非常にいい状況になりました。私達も学生にね、あなたはこれをやりたいと言って私を選んだんでしょ、今さらやらんとは言わせませんよと言えるわけね。こういうやり方は今までなかったやり方なんです。いいことに、やる気のある学生が、目的意識を持って来るようになりました。だから、それを1年生のときから出せないかという皆さん方の希望は私も最大限に伝えたいと思

います。

気がついたらいつでも遠慮いりませんので、学生関係は教務課、学生生活課、それから共通教育、あるいは大学教育センターがありますし、何でも相談室もありますからそちらに何でも相談してください。

今日は皆さんが期待してたこと、また、問題だと思ったところはかなりお聞きできたし、このアンケート調査もありますので、纏めて全学・外部にも公表したいと思います。この記事に掲載する広報誌YU Informationをクラスメートやお友達にも読んでもらい、この問題についてたくさんの方が情報を共有することによって、山口大学の教育改善も早く進むと思います。

本日はご苦勞様でした。



TOEICの全学的導入



宮崎 充保
英語部会長
経済学部経済学科

コミュニケーションスキルの向上をめざして

2001年岩部英語部会長を中心に誕生した新しいカリキュラムは、決して安産ではありませんでした。従来の教授法や履修法を劇的に刷新するこのカリキュラムは、コースカリキュラムの長所を利用して英語のコミュニケーションスキルの向上に焦点を当てています。その核となるのが、TOEICテストの導入によって、学生を初手からcommunicative Englishへ向かわせることです。全国の大学では類を見ないやり方です。TOEICテストの可否の問題はさまざまに残ります。しかし、TOEICテストの導入は従来の英語教育よりすぐれた点がいくつもあり、前部会長の言葉を借りると「これ以上、英語教育が悪くなることはない」と言えます。

「これ以上悪くはならない」

TOEICテストはTest of English for International Communicationの略称です。名称にあるとおり英語のコミュニケーション能力を測る国際標準テストです。このテスト

では990～10点の範囲で即時的コミュニケーションを行うための3つの要素（語学力、コミュニケーション能力、短時間での決断力）が試され、スコアは、自己の英語力の指標として示されます。合格も不合格もない、自己確認のためのテストです。これを英語教育の現場に持ち込むとさらにこのテストの長所が姿を現します。それは以下の点において明確に見られます。

【客観評価】 自己確認をするためには客観評価が必要です。学習者も指導者も自己確認をするためには客観評価を用いなければ、まず不特定多数の他者との位置関係がつかめません。それをつかむことができたなら、今度は、学習者は目標を自分で設定でき、指導者は教授法を改善できます。このテストは国際標準テストとして精度の高い評価基準を持つので、両者ともに「目標」の設定は比較的たやすくできるのです。

【目標設定】 学習において「目標設定」はいちばん重要な要素です。学習者にも指導者にもこのことがなされなければ授業は形骸化や空洞化を免れ得ません。「何を」するのかはわかっているが、「何のために」「どのように」がまったく見えないままに事が進めば学ぶ喜びなど生まれようありません。授業では、時間よ早く経っておくれ、と願いながら辛抱して大切な人生の時間を消費するだけです。

【動機付け・アカウントビリティ】

TOEICテストは、獲得したスコアで自分の過ぎ来し方を批判も正当化もできます。学習者は自分の勉強、すなわち、自分の目標に責任を持たなければなりません。指導者は、TOEICテストの意義と性質を説明して目標達成への学習指導

をする責任を持つことになります。前述した通り、テストは精度の高い客観性を持っているので、学習者も指導者も自分のやったことに嘘はつけません。両者にインセンティブが生じ、動機付けが生まれます。それは悲観や諦観の材料ではなく明るく歩を進める材料になります。目標に達していてもいなくても構いません。達しなければ自分の勉強のあり方を修正できます。超えるなら、次はバーを上げることができます。指導者も指導のチェックポイントが明確なので改善点を認識できてそれを実践へ移せるのです。入試のように精神的に傷つく要素はありません。

こうした目的の背景には、national standardsからinternational standardへの加速度的な移行の中で、英語が「利用価値」に関していちばん高いものになっている状況と、大学が国内でも国際的にも生き生きと機能する要請があることはもちろんのことです。

TOEIC実践

【統一教科書】 TOEICテスト関連の授業では、山口大学の事情に基づいて独自に開発した教科書が用いられます。特色は、たつぷりと本腰で勉強する自習課題がついている点です。統一教科書の利点は教材面での不公平感を除去します。それは、指導者によってまちまちだった評価に一定の評価基準を設定することにつながります。指導者の面目躍如たるところは、その教科書を媒体にして、いかに授業をするかというところなのです。

TOEICの実践は、まず「TOEIC準備」（『速習TOEIC テストトータルトレーニング』）でTOEICテストの形式・問題への対処の仕方を授業

中に学びながら、授業外では自習課題を毎日やることになります。「目標」や「意義」を理解しない学習者には、来る日来る日が地獄です。

【能力別クラス編成】 その週1回の授業と毎日1時間週6日を5週間続ける自習課題の取り組みの結果が如実に表れたのが、6月8-9日に実施した受験者数2,501名（うち1年生2,017名）の第1回TOEICIPテストでした。実はこのテスト受験には、もう一つ重要な教育上の問

題解決が目論まれていました。それは、本年度発足した新カリキュラムの真骨頂です。能力別クラス編成を通して個別の学力に応じた指導をするためのプレースメントテストとしてTOEICテストを利用することです。前期クオター1の最後に実施される第1回目のテストを境に、スコアにしたがって個別の英語学習のやり方と進み方が決まるのです。

【少人数クラス】 このカリキュラムでは、TOEICテストによって自

分の居場所が決定されます。スコア300、400、500、600によってその場所が決まるので、学年や学部に関係なく自分に必要な英語力をつけるように指導体制が出来ています。折々のTOEICテスト受験でハイジャンプを達成することで、今の居場所から“随時”に抜け出せるのです。その度にクラスの編成規模は小さい方へ向かって行きます。このことは、このカリキュラムの必然的帰結です。

TOEIC IPテスト:第1回目の結果(共通教育教務係の資料による)

[表1] 平均点とスコア別人数分布 (過年度生は含まない)

	受験者数	平均点	最高点	最低点	-300	300+	400+	500+	600+
人文学部	199	461	690	160	7	38	146	5	3
教育学部	248	398	700	185	24	113	78	27	6
経済学部	389	410	630	190	32	133	178	43	3
理学部	238	381	630	155	24	122	77	13	2
医学部	85	582	875	400	0	0	13	35	37
医学部保健学科	120	472	635	320	0	10	73	33	4
工学部・昼間	544	384	885	165	73	257	171	35	8
工学部・夜間	59	334	475	195	15	30	12	1	1
農学部	105	409	630	255	9	41	34	20	1
農学部・獣医	30	555	820	410	0	0	6	18	6
合計	2,017	414	885	155	184	744	788	230	71

[表2] 年次別・学部別に見た必須スコア達成率

		受験者数	300+	-300	-300の割合
1年生	人文	199	192	7	3.5%
	教育	248	225	24	9.7%
	経済	389	355	32	8.2%
	理	238	213	24	10.1%
	医・医	85	85	0	0.0%
	医・保健	120	120	0	0.0%
	工・昼間	544	471	73	13.4%
	工・夜間主	59	46	15	25.4%
	農・生物環境／機能	105	96	9	2.6%
	農・獣医	30	30	0	0.0%
過年度生	合計	2,017	1,833	184	9.1%
	人文	53	49	4	7.5%
	教育	128	95	33	25.8%
	経済	133	105	28	21.1%
	理	79	65	14	17.7%
	医・医	2	2	0	0.0%
	医・保健	-	-	-	-
	工・昼間	56	44	12	21.4%
	工・夜間主	2	2	0	0.0%
	農・生物環境／機能	31	22	9	29.0%
合計	農・獣医	-	-	-	-
	合計	484	388	96	19.8%
総合計		2,501	2,221	280	11.2%

[表3] スコア別に見た進路コースの人数

スコア	人数	割合	累積人数	以後の進路コース
800+	3	0.15%	3	8単位取得修了
700+	12	0.59%	15	8単位取得修了
600+	66	3.27%	81	8単位取得修了
500+	271	13.46%	352	展開へ(工学部6単位取得修了)
400+	735	36.44%	1,087	展開へ(4単位認定)
300+	746	37.13%	1,833	基礎「英語基礎1・2」へ
-300	184	9.12%	2,017	基礎「TOEIC指導」へ

(過年度生は含まない)

「これ以上悪くは」ならなかった

新しいことをするときには常に“出たとこ勝負”の様相は否めません。「決してこれより悪くはない」という信念に支えられながら『包括』の「TOEIC準備」を終えて第1回目のテスト実施でした。不安はしたがってつきものなのですが、昨年のパイロットクラス（「コミュニケーションツールとしてのTOEICの授業導入パイロット授業『TOEIC300準備・指導』報告」（『YAMAGUCHI UNIVERSITY,CENTER INFORMATIONセンターだよりautumn 2001 No.5』山口大学共通教育センター、所載）の経験から判断して、当初、400+ 30-40%、300+ 40%、-300 20-30%という数字を念頭に置いていました。

主眼は-300の統計値です。結果として、新1年生はその数値は9.1%という不安要素を吹き飛ばすほどの裏切りの数値でした。全体でも11.2%で、予想した20%うち8.8%は400+に転嫁しています。そのために前期クオター2で設定していた「TOEIC指導」のクラスが見事に少人数化してしまいました。1クラス60-100人はもはや古の悪夢です。また、底上げのための絶好のチャンス到来です。「これ以上、悪いものにはならない」とは至言です。「目標設定」をして「客観評価」をやすがに行ったカリキュラム冒頭の「TOEIC準備」の授業はアカウントビリティを持っています。上の表群が示すようにスコアにかかわらず、学生はもっと英語に取り組むでしょう。ちなみに、スコア595-580の29名の学生は600以上をねらうでしょう。また、スコア395の学生だけでも44名います。こうした学生は自己の英語力の高低に嘆くのではなく、5点足りなかったことに一念

発起して目標を高くして次回のテストに挑む可能性は大です。境界域のスコアを下向きに見る学生はゼロに近いはずです。最後のTOEICテストの長所をここで挙げますと、取り組みに**【励みや弾みをつける】**ということです。前述の『パイロット授業報告』の中で、ある学生は「普通に英語の講義を受講していたら、こんなには英語をしなかっただろうし、こんなに今からの将来に英語が必要だとは思わなかったと思います」と述懐しています。

問題は、なぜ300点が必須であるのか、を考えなければなりません。加えて、『総説』に「TOEIC認定400」という400点をなぜ配したのかも考えなければなりません。答えもヒントも上の表群が明確に物語っていると筆者の私は考えます。たとえば、400+の1年生の割合は53.9%です。これは「目標」と「責任」をもっとはっきりさせて本気で勉強すれば、90%以上の学生は400+を目指すことができる可能性があるのではないのでしょうか。山口大学ならばそれができる、別言すれば、山口大学では、必須スコア300点と『総説』スコア400点は、将来、上へ向かって成長しうるし、また、成長する必要があると言えるでしょう。山口大学の特色はそこから生まれると期待できます。

最後に、TOEICテストは“量の上の水練”でしかないことを学習者も担当者も強く明記しておかなければなりません。『総説』を通過して『展開』に到達した学生も、いきなり共通教育の全必須単位を取得した学生も、新カリキュラムがコミュニケーションに焦点を合わせた以上、コミュニケーションの実践をしなければ、単位取得の手段でしかない退廃にカリキ

ュラムを追い込んでしまいます。能力の自己確認の後には実践が控えています。カリキュラムとしては『展開』そしてそれ以後で、実践（場の提供やFDなど）までを含めて指導がなされて、学生が少し深いところで“英語でわたり合える”歓びを知ったとき、本当の意味での「TOEICの全学的導入」の意味が生まれてくるはずです。

Tel/Fax 083-933-5584

e-mail:mmiy@yamaguchi-u.ac.jp

徹頭徹尾学生主体

英米語文化論コースの英語劇

宮原 一成
助教授
人文学部言語文化学科

後学期が始まり、10月半ばになると、人文学部英米語文化論コースの2年生・3年生たちは、どこことなく気ぜわしげな顔つきになります。授業が終わった後の空いている教室を使って、何やらしきりにミーティングを開いています。11月終わり頃から、6階の学生研究室では、見慣れない道具や模造紙、ポスターカラーの類が場所を占拠し始めます。しかし、卒論の追い込みに入った4年生も、邪魔物扱いするどころか、暖かい目でそれを見やっています。今年もまた、クリスマス会の英語劇が近づいてきたのです。

英米語文化論コースは、一学年の学生数が30人弱という大所帯ですが、和気あいあいとしたコースで、いろいろな年中行事でふだんから親交を深めています。春の進学生歓迎コンパ、コース懇親合宿、卒業コンパなどありますが、なかでも最大の恒例行事が、20年以上の伝統を誇るこのクリスマスの英語劇です。

この行事が始まった当時は、クリスマスにちなんだ物語を創

作し、教室を借りて少人数で演じていたそうですが、近年はコースの一学年の人数も増えたおかげでしょう、かなり大がかりな演劇という感じになっています。10数年前から興った小劇場劇団ブームの影響か、ポストモダン芸術の潮流を意識してか、はたまたテレビのバラエティ番組を単に真似ただけなのか、歌あり、踊りあり、パスティーシュあり、パロディあり、サービス満点のスペクタクルで、観ている4年生と大学院生そして教官たちを楽しませてくれます。2年生と3年生が、学年ごとに別出し物を用意します。3年生は手慣れたもの、2年生は先輩のアドバイスも受けながら少しばかりおずおずと、というのがいつものパターンなのですが、このところ2年生のうちから、かなりよく練られた芝居を上演するケースも増えてきて、これは嬉しい驚きです。「人前に立って演技するなんて」と最初は後込みする学生もいますが、準備を進めていくうちに、いつの間にか引き込まれていくようです。

特筆すべきは、これが一から十まで学生の手によって計画・実行されているということです。授業の一環として教官が学生に命じて芝居をさせるのではないし、脚本づくりで英作文を手伝うこともありません。どういう筋の劇を書くのか、誰に

どの役をキャスティングするか、すべて学生同士の相談で進められます。コースの全員が舞台上がって何かの役を演じることになっていますので、配役や劇作には毎年苦心しているようです。加えて、衣装や大道具づくり、分担しての英作文、練習スケジュールの設定（みんな個人的都合を少しずつ我慢して協力しています）、そして会場となる大学会館の手配など、仕事はそれこそ山ほどありますが、教官は一切タッチしません。英語劇を恒例としている大学は他にもありますが、うちのようにはすべてが学生の自主運営というところは、非常に珍しいのではないのでしょうか。

12月、クリスマスに近い金曜日の夕方、授業が終わるのももどかしく、学生たちが大道具を大学会館に運び込みます。日も暮れた頃、4年生や院生、そして招待状を手に教官たちも会場に集まります。昨年度は、他学部や他コースからも観覧希望者がやってきて、演者はいよいよ気合いが入りました。毎年趣向を凝らした司会により、いよいよクリスマス英語劇の幕開けです。英語の出来は完璧、とまではいなくても、なかなか見事なプロット構成力や意外な人の意外な演技力に、観客は大いに笑ったり感心したり、そして最後には盛大な拍手を送ります。そし





て、去年まで同じ苦勞を味わってきた4年生の合議によって、最優秀助演賞・最優秀主演賞・そして特別賞が選定、授与され、めでたくクリスマス会は幕を閉じるのです。

後かたづけ（これも全部学生がその日のうちにてきぱきと行います）が済むと、今度はクリスマス・コンパになだれ込みます。コンパの席で、劇の感想や苦勞話に花を咲かせ、コースの学生同士の絆がまた深まったことを、今年もまたみんなで実感するのでした。



これからの 教師像を見据えて



吉川 幸男
助教授
教育学部社会科教育

二つの「基礎演習」

学生たちはそれぞれ「小さな、しかしこだわりのある疑問」をもって大学に入ってきます。「週休2日は正しかったのか」「なぜ癒し系の音楽が売れるのか」「なぜ三国志は人気があるのか」「不登校はなぜ起こるのか」「なぜ歴史を学ばなければならないのか」このような疑問をもとに資料を調べ、仮説を立て、討論する、という授業があります。これは「社会科基礎演習B」という科目で、ここでは課題設定の仕方、資料の探し方、読み方、議論の進め方などの習得をめざしています。さらに一方では、次のような授業もあります。山口大学のある山口市平川地区のフィールドワークとして、平川の地域環境、集落形成の歴史、ため池と地域の暮らし、イチゴ農家などをグループで分担して調査し、研究成果を小学校で児童や地域住民に向けて発表します。これは「社会科基礎演習A」という科目で、地域の題材をもとにした社会探究の視点、調査の方法、研究のまとめ方、発表の仕方など

の習得をめざしています。この授業での発表のようすについては、新聞紙上やテレビのローカルニュースでも取り上げられました。

今どきの教員養成

上記のような科目は、少し前まではありませんでした。教員養成課程では開設する科目は法律によって大枠が決められており、特色ある科目を開設しにくいという側面がありました。しかし今や、法律の大枠のもとでごく一般的な授業を通り一遍に実施する、ということでは、社会の動きに対応できなくなってきています。今日、学校教育には情報教育、国際理解教育、環境教育、人権教育など、教科外のさまざまな教育課題が山積しており、「総合的な学習」の実施とも相まって学校と地域社会との連携も求められています。大学の教員養成課程も時代に応じた、特色あるカリキュラムを提供することが望まれています。

教員免許は今日、もはや単に一つの資格として取るものではありません。社会はどんな教員を求めているのか、学生はどんな教員をめざしたいのか、それらの「教師像」を吟味検討しながら、大学も、単に資格として教員免許を取れるようにするのではなく、「どんな教員を育てるか」「地域や学校とどんなかわりを創る人材を送り出すか」という「養成の中味」を検討しつつ、カリキュラムと授業内容を工夫しなければなりません。

地域や生活からの知的探究を軸に

私たちは教育学部にあって、小学校及び中等教育の社会科教育に

携わる人材の育成に努めています。今日、初等中等の社会科教育は「知識の伝授」を中心にしたあり方から、「興味関心・課題探究」を中心としたあり方に大きく変貌しようとしており、そのような学習を指導できる教員が求められています。つまり社会科の内容に関する知識をもっているというだけではなく、その獲得過程が問題なのです。身近な生活の中からのように課題を見つけ、どのように追究し、どのように相互の意見交換の場を創り上げるか。その過程を、実際に経験することを通して身に付ける必要があります。そこで私たちは、「地域や生活を軸に知的探究の楽しみと広がりのある社会科」を創造できる人材の育成をキーコンセプトに、地域の調査と課題探究方法を中心にした科目を開設し、これを4～5名の担当教官による集団指導で実施しています。上記の2つの科目は、そのような考えから開設した科目です。実施して今年度で3期目になりますが、今のところ学生たちは予想以上に真剣に取り組み、活動しています。やはり講義科目を受動的に聴講するよりも、準備は大変ではあるが楽しいようです。これらの科目を開設した効果が今後、教育実習、卒業研究、さらには卒業後にどのように現れるか楽しみにしています。

これもなにかの縁ですし…

兵藤 隆
助教授
経済学部経済学科

はじめに

山口大学を志望し、入学してくる学生諸君には様々な動機があったことでしょう。「たまたま家の近所だったから」とか「父親の出身大学であるから」とか「進路指導の先生に薦められたから」など、まさに十人十色だと思います。そして、学生を教えている我々も山口大学へ赴任するにあたっては、様々な理由や動機があったはずです。そのような事情が複雑にからみあった結果、学生と我々教官は山口大学という地で出会あうわけです。それは「縁」と呼ばれるものです。縁は偶発的に結ばれることもあります。私自身は必然的に結ばれることの方が多いのではないかと信じています。これからみなさんと新しい縁が結べるように、ここでは、簡単に経済学部の紹介をしていきましょう。

経済学部ってどんなところ？

山口大学経済学部は、現在、「経済学科」、「経営学科」、「国際経済学科」、「経済法学科」、「商業教員要請課程」の4学科1課程で構成されています。前身である山口高等商業専門学校の設立が1905年ですから、2005年でちょうど100周年を迎えることになります。山口（長州）という地から維新が起き、江戸から明治へと時代が大きく変っていったこととあわせて考えると大変興味深いことです。学部の構成をみてもらってもわかるように、実践的な学習が身につくよう経

済学だけでなく、経営や法律まで広く知識が習得できるような仕組みになっています。また、学科ごとに「コース」が設定されていますので、「どんな科目をとった方がいいのかわからない」という学生がでないように工夫しています。もちろん、そのコース選択は自分で決めることができます。さらに、実践的な知識を求める人には「準コース」も用意されていますから、語学力のアップや公認会計士、税理士など専門知識を活かした職業を目指す人にはより深い学習ができるようになっています。

経済学部を卒業した後は？

おそらくみなさんが一番気になっているのが、卒業後の進路なのではないでしょうか。大学で4年間一生懸命勉強したのに、その後はアルバイトで食いつなぐというのではあまりに夢がありませんからね。その前に、「大学でみんな本当に勉強しているのか？」という疑問があるかもしれません。結論から先にいえば「勉強せずに卒業ができるほど甘いところではない」ということになるでしょうか。さあ、ここで拒絶反応を示した人は「勉強すること」の意味がわかっていない人なのでちょっとお説教です。大学では、「人から教わる」のではなく「自ら学ぶ」ということが基本になります。自分の興味のあること、ないしは、自分に必要なものについて自らが選択して知識を修得していくわけですから、それは決してつらいだけの「お勉強」ではありませんので安心してください。話を元に戻しますと、就職活動は卒業論文と同様に「大学生活の集大成」です。つまり、これまで身につけた知識をいかに活かしていくかということになります。まだまだ専門性をつきつめていきたいという人は大学院に進学しますし、金融論や経営学で学んだ知識を実践したいという人は銀行へ就職します。また、

マクロ経済学や公共政策論などで学んだ政策を実践したいという人は公務員を目指しますし、ベンチャービジネス論で起業に目覚めた人は自ら会社を興し、社長となります。他にもここでは書ききれないくらいの先輩たちが、社会の最前線で活躍されています。みなさんが社会にでて、諸先輩と出会う機会が増えるにつれ、100年という伝統の重みが少しずつ理解できてくるでしょう。

おわりに

ごく簡単に経済学部を紹介をさせていただきましたが、いかがだったでしょうか。当然、情報量としては満足のいくものではないでしょう。あとは、オープンキャンパス(大学見学やミニ講座を受講することができる)などを利用して実際に山口大学を自分の目で見てください。「百聞は一見にしかず」です。パンフレットや受験情報誌からは見えてこない本当の「山口大学」が見えてくるはずです。みなさんとい「ご縁」がありますように。

物理の専門教育紹介

原 純一郎
教授
理学部自然情報科学科

朝日 孝尚
助教授
理学部自然情報科学科



Illustrated by Miss Naohiro Kato, 2000

上の絵は、理学部物理講座のホームページの扉絵です。ニュートンの重力発見にまつわる「りんご」と、量子力学の不思議さを象徴する「シュレディンガーの猫」が描かれています。この絵のしめすように、大学の物理の授業では、皆さんに馴染みの深い力学、電磁気学から始め、現代物理学の粋である相対論・量子力学・量子統計まで、順を追ってバランスよく学んでゆきます。大学での授業には大別して、講義・演習・実験がありますが、各々の授業がどのように進められるのか具体的に説明しましょう。私に身近で、特色のある演習と実験の授業について述べます。

演習の授業

演習の授業は、物理学演習ⅠとⅡが2年生の前期と後期、量子力学演習と統計力学演習が3年生の前期と後期に行われます。どの授業も各クラス約20名程度の小人数教育です。量

子力学演習について少し詳しく述べます。この授業では、量子力学の講義の進行にあわせて毎週出される演習問題の答えを各自レポートとして提出します。ティーチングアシスタント(TA)がレポートを読み、学生がどこまで理解しどこで間違ったのか調べ教官に報告します。それをもとに、教官が再度チェックし学生がわかりにくかった点・間違いやすい点を整理し、次の演習の授業で解答をします。この時間に、学生から添削についての疑問点や解答についての質問がどんどん出れば成功です。レポートを書くには毎回2時間から3時間かかるようですが、多くの学生はよく頑張っています。演習問題が解けない時は直接教官の部屋を訪れたり、物理講座で開設している「寺子屋」に参加してTAや教官と話し合い、今までの復習をし理解できなかった点を補うことにより、出来るだけ早く追いつくようにしてもらいます。他の演習の授業でも習熟度別のクラス



を開いたり、毎回非常に丁寧な添削をしたり、それぞれ工夫した授業が行われています。

実験の授業

実験の授業には物理学実験I、II、IIIがあり、それぞれ2年生後期、3年生前期と後期に毎週約3時間の授業が行われます。物理学実験Iでは、準備されている装置を使い指定された方法にしたがって実験を行ない、考察しレポートにまとめるという一連の作業を体験します。テーマとしては電気回路（アナログおよびデジタル）、蛍光灯、 β 線の吸収、真空ポンプ、熱電対、水の粘性などがあり、毎回1テーマずつ実験をしていきます。これに対して物理学実験IIでは、半期で2テーマ（6週で1テーマ）の実験をします。テーマと大まかなスケジュールが与えられますが、実験方法を細かく指示したテキストはありません。実験グループの仲間達と一緒に、配られた参考資料を読み図書館などで調査をして、実験方法を設定し、どのような実験装置が必要かを考えたり得られたデータの処理方法を考えたりしながら、自分達で実験を進めてゆきます。各テーマについてレポートを提出するのはもちろんのこと、最終回には、まとめの発表会を開いてプレゼンテーションの練習をしています。物理学実験IIIではさらに期間が長くなり、半期で1テーマの実験をします。これら実験の授業では、基本的な実験技術を習得するだけでなく、あるテーマに向かって具体的に仕事を進める能力を養うことを目指しています。

良い医師や医学研究者を育てるための医学教育の工夫



福本 陽平
教授
医学教育センター

1. 生命科学の進歩で医学生さんは大変！

人の遺伝子の解読や、免疫学の発達、細胞内伝達系の解明など、急速な生命科学の進歩は、医学部での教育内容を増大させました。これでは、学生さんに膨大な量の学問を限られた時間内で学ばせることになります。そこで本学部では、各講座独自のカリキュラムを思いきって統合・再編成し、新しいユニット・コース制を創設しました。すなわち、基礎医学や臨床医学分野における各講座間の内容の重複や互換性を整理し、各学問体系を効率的にまとめた授業編成にしたことです。従来の解剖学や生理学、薬理学などは臓器単位で、内科学や外科学などは臓器病学単位として、一つのコースやユニットの授業にまとめました。そこで、解剖学の授業に皮膚科の先生が登場したり、内科学の授業に基礎医学である病理学の先生が来て教えることになりました。

さらに、学部教育の内容を全てオープンにしたシラバスを作成し、各授業では何をどこまで教えているかを明らかにしました。シラバスは電子化されコンピ

ューター化されましたので、学生さんはシラバスのページを開くと、1年生でも何年時にはどんな授業が行われるかを知ることが出来ます。これらのカリキュラム改革や電子シラバスの作成は、わが国の医学部の中でも、最先端を走っているものと自負しています。

2. 医者に相談したら怒られた！

医学、医療は自分の健康や病気の予防とともに、いつも社会の関心事です。しかし、誰もが病院に行くことは嫌であり、自分と合う医師の出会いを願っています。

「医者に相談したら怒られた」というマスコミの見出しに代表されるように、医師の態度が益々問われるようになっていきます。これは、若い医師の研修も含めて、医学部での専門教育そのものが問われていることです。過去の医学教育では知識に関することが偏重され、技能や態度については、卒後の教育と位置付けられてきましたが、周囲の社会の変化をも視野にいれると教育改革を行う必要があります。さらに最近、文部科学省もこれらを医の基本として教えるように推奨するようになりました。

本学部では、医療面接の授業を始めしています。患者さんとの出会いでは、病気に関する情報の収集、感情面への対応、検査や治療についての十分な説明などが、理論とともに実践できなければなりません。この授業では、健康な方を指導して患者役になってもらう模擬患者さんの導入が非常に効果的で、学生さんにも臨場感を与えます。

また、身体診察技能の実習後には、実際に教官の前で実技を試すシステム化された試験、OSCE（オスキー）を行い進級の評価にすることで、学生さんをやる気にさせています。医学教育には、インフォームド・コンセントなどの医

療倫理に関することも重要です。これまでの医の倫理の授業は、過去の哲学者の講義に始終することでしたが、現在では、患者例の医療倫理を問題として取り上げ、実際の授業を展開するようにしました。

3. 教官の教え過ぎはよくない!

熱心な教官ほど、自分の専門領域を最大限教えようと思いますが、学生諸君の評判は必ずしも良くありません。医学・医療の分野では常に、現時点での最新の知識や最良の治療法は何かが問われます。そこで、過去の知識を詰め込むよりも、どうすれば自分で新しい知識を得て、自ら勉強してゆけるかを身につけさせる教育の方が、より重要ではないかと考えます。すなわち、能動的で自発的な教育方法として、少人数の自学自習を中心にしたテュートリアル法の導入です。ここでは、教官は教えずに小グループの討論で問題点を発見させ、自学自習により解決することを方向づけるやり方です。眠い講義を聞くよりも良いと学生さんには好評のようです。このほかに、能動的な学習カリキュラムとしては、自己開発コースや修学論文テュートリアルなどがあります。また、病棟で患者さんから学習する病棟実習の方法も、教官について廻る見学型から、医療チームの一員に加わる参加型(クリニカルクラークシップ)へと転換する予定です。さらに、教育評価が始まり、教官の授業は、各講義毎に自己評価に加えて、学生、同僚が評価しコンピューターで集計、公表されます。これでまた、授業がさらに変わると予想されます。

医学部では、多くの教官の協力により教育改革を進め、現代に合った医学教育をすすめています。学生一人一人に気を配り、臨床医や医学研究者として大成できるような人材の育成に努めています。

生命を科学する 農学と獣医学

—専門教育にも工夫があります—

山内 直樹
教授
農学部生物資源環境科学科長

横山 和平
助教授
農学部生物機能科学科

木曾 康郎
教授
農学部獣医学科長

生物資源環境科学科

私たちの学科では「食料生産」「管理」「流通」「環境」を教育・研究のキーワードとして、食料資源の確保、食料の増産と質的向上、食料生産の場を取り巻く環境の保全、並びに食料流通に関する教育・研究に取り組んでいます。

この学科の入学から卒業までの教育を簡単に紹介しましょう。入学すると学生10数名に対して1名の先生が担任教員として配置され、みなさんの良き相談相手になります。入学後すぐに開催される「フレッシュマンセミナー」では、教員に加え、学部の上級生や大学院生も加わり、教員の研究内容・専門の講義・将来の進路・クラブ

活動・大学生活全般などについて説明を行い、みなさんが安心して勉学に打ち込めるようサポートしています。

2年生で開講しています学科の特徴ある実験・実習・演習科目、「生物資源環境科学総論基礎実験」を紹介します。われわれの学科では、3年生から専門的な実験が開始されますが、それら実験科目を受講するための入門編として2年生で基礎実験を開講しています。幅広いカリキュラムを提供する本学科において、どのような専門分野に進んだとしても必要となる実験の基礎を習得できるように組み立てられています。イネを中心に栽培・生育・収穫までの一貫した調査、栽培時の気象・土壌・生物環境に関する調査、化学実験の基礎と成分分析、得られたデータを取りまとめ解析する方法などについて順次学ぶことができるよう配慮しています。(写真)

3年生では専門に係わる実験・演習が始まり、それぞれの希望の研究室に分かれ、卒論研究を行います。卒論研究では一つの課題に対して、教員の指導のもと、自分自身で計画を組み立て、研究を進めていきます。試行錯誤を繰り返しながら、結果をまとめ、最後に卒論発表会にて成果を報告します。この卒論研究を通して、「課



私たち、総論実験中!



題発見能力と探究能力」「プレゼンテーション能力」などを身に付け、社会で活躍できるよう指導しています。

生物機能科学科

人類は古代から酒、酢、チーズ、パン作りなどでバイオ技術を巧みに使い、暮らしに役立ててきました。現在では伝統的に行われてきた技術の仕組みが科学的に明らかにされ、新規な機能性食品やバイオ医薬品などが我々の生活をよりいっそう快適にしています。地球上の人口は60億を突破し、食料の安全供給は将来の重要課題となります。バイオ技術はこれから人類が直面するであろう困難を克服するための方策の一つでもあるのです。生物機能科学科はこれらを中心的課題とし、生化学や先端バイオの知識や技術を修得した、社会に貢献できる人材を育成することを目指しています。

本学科では最新の生命科学から得られる先端的手法や技術を駆使して、微生物、植物、動物の有用遺伝子やタンパク質、更にそれらが作り出す生理活性物質について、また有用微生物や植物の開発などをめざして研究を行い、同時にそれらを授業に取り入れ、充実した教育を行っています。専門教育課程は、必要な知識を基礎的なレベルから最新の研究を理解する

のに十分なものにまで引き上げるとともに、高度な実験技術も身に付くように構成されています。また、学科教官が担当する共通教育科目では、基礎的なが専門課程への導入に不可欠な内容が組み込まれています。特に、基礎セミナーでは、山口大学の理念である「発見し、はぐくみ、形にする」に沿って、自分たちでテーマを見つけ、それを調査・研究し発表するというプレゼンテーションの訓練も行っています。

生物機能科学科では、各学年に対して3~4人の修学担当教官をおき、学生の皆さんの勉強、進路などに関する悩みに対応しています。また、新入生と在学生の交流にも力を入れており、フレッシュマンセミナーでは教官だけでなく、上級生、大学院生ともふれ合う機会を設けています。

本学科は平成13年度に改組されたばかりで、この新しい学科の評価は卒業後の皆さんの活躍次第で決まります。卒業後、山口大学大学院農学研究科修士課程、あるいは本学も参加している鳥取大学大学院連合農学研究科博士課程などに進学して、さらに専門的な知識や技術を向上させる道も用意されています。本学科の教官は社会の第一線で活躍する多くの卒業生や修了生を輩出した実績をもっています。生物機能科学科は、学生の皆さんが将来、食品・薬品・化

学・バイオ・環境などの分野の最先端で人類の幸福に貢献するために必要な知識・技術を身につける場を提供しています。

獣医学科

獣医学教育の第一義の目的は、将来獣医師という資格を介して、動物と人間の福祉に貢献する人材を育成することです。それでは、獣医師とはどのような職業でしょうか？獣医師の対象となる動物種は、牛、豚、鶏などのヒトの食料としてのfood animal、犬、猫、馬、エキゾチック アニマルなどのヒトの伴侶動物（コンパニオンアニマル）、医薬、動物薬、微生物、食物などの薬効、毒性、病原性および安全性を評価するためのマウス、ラットなどの実験用小動物、地球環境保全と環境汚染モニターに重要な野生動物や海洋哺乳類など、職域や目的により広範囲にわたります。従って、当然ながら獣医師国家試験の出題範囲も多岐の分野に渡っています。全国のどの大学においても、限られた時間やスタッフの中ですべてを十分に教育出来る体制には無いというのが実情ですし、大学間で教育内容に大きな差が有ってもいけません。

それでは私達は何を目標に教育をしているのでしょうか？獣医師は、資格を持った専門家として種々の問題処理能力が問われます。「高等学校教育とは違い、手取り足取りを待つのではなく、大学では自らが思考し、自主的に学ぶところである」と良く言われますが、特に獣医学教育ではこの点が強く求められます。それぞれの分野の講義、実習等においても、ただ知識として教えると言うので

はなく、他の分野とどう関わっている分野なのか？実社会とどの様に関わっている分野なのか？どのような考えをもとにしているのか？が強調されます。

各研究室の研究指導においても、各専門分野の知識の習得も大事ですが、専門家として自立出来る事を目的とした基本的なトレーニングがより強調されます。学部の卒業生は、既に立派な獣医師と言うのではなく、単にスタートラインに立っただけです。従って、どのような進路であっても、自分で何でも吸収・処理していける責任能力を学部教育の中で、養う事が私達の教育目標と言えます。繰り返しますが、私たちは場を提供しているのであり、その中で一を聞いて十を知るのは皆さん次第であることを忘れないで頂きたいと思えます。

面白くてわかりやすい 専門教育を目指して

山本 修一
教授
工学部応用化学工学科

小学校、中学校、高等学校と順番に勉強する内容は難しくなりますね。では大学に入るとどうなるのでしょうか？私自身のぼんやりとして記憶では、難しいというよりは戸惑ったという印象でした。大学へ入るまではほとんどの学校で時間割は一つですから、その時間割のとおり自分の机と教室で勉強することになります。大学では、時間割を自分で作って教室を時間ごとに移動しなければなりません。確かにたいへん難しい内容の講義もあります。世界の最先端の研究内容につながるのですから、たとえ難しい内容でも知らずに済ますわけにはいかないのです。

とはいえ、現在の山口大学工学部における講義とは先生が難しい顔をして教科書や資料を読み上げるだけではありません。色々な工夫をしています。工学部のホームページにある「教育方法改善の広場」をのぞいてみましょう。

教育改善プロジェクトと書いてあるところをクリックすると

- 高分子材料科学自習・実験用教材の開発
 - ワンチップ・マイコンの実践的な入門用テキストと試験装置の製作
 - Sound Approach Multi-media Reading and On-line Technical Pronouncing
 - 工学基礎教育におけるe-ラーニングシステム
- など面白そうな内容がならんでいます。

このなかで高分子材料科学自習・実験用教材の開発について簡単に紹介します。資料などは公開されています。

<http://www.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~tsutsumi/>

このプロジェクトは、応用化学工学科の堤宏守先生が3年生に教えている専門科目「機能高分子化学」を教室や家でできる簡単かつ安全な実験や自習教材によってより深く理解しようとする試みです。教科書の中身を暗記するというものではなく、高分子化学・高分子材料の概念を実体験を通して理解してもらおうというものです。（中から数テーマを紹介します。）

（１）高分子材料に触れてみよう：高分子材料は、身近に数多くの種類のものが使われていますが意外にその実体を理解していないものです。そこでよく見かける代表的な高分子材料のサンプル板をひとまとめにしたもの（写真１）

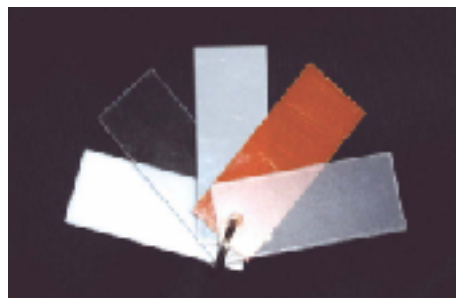


写真１ 高分子サンプル板

を準備、各自に配布し、講義の最初に触れてもらい、手触りや柔らかさ・硬さなどから、高分子材料の多様性を理解してもらいました。

(2) 高分子化合物の大きさと形の理解：その名のとおり高分子化合物は、分子量が高いという点が特徴ですが、形や大きさのイメージが湧きにくいものです。そこで、分子量約1万の高分子鎖を1千万倍した大きさにあたる長さ90cmのたこ糸を各自に配布し、その太さと長さを比較することから、高分子鎖の“細長い”という特徴を手にとれる形にして実感してもらいました。この糸は、レポート課題、“たこ糸を切って、分子量分布を理解しよう”にも使用しました。

(3) 高分子化合物の固体構造を考える：高分子化合物の固体構造と温度による構造変化は、実際の材料として利用する際には、重要な特性なのですが、やはり実体験不足のためか、わかりにくいようです。そこで、(1)で配布したサンプル板をお湯に漬け、柔らかくなったところで変形させ、冷却後どうなるかを調べてもらいました。(別にお風呂でやる必要はないのですが、やった人もいたらしいです。)そして、各材料で異なった結果になる理由を講義で説明した内容を基に考えてもらいました。

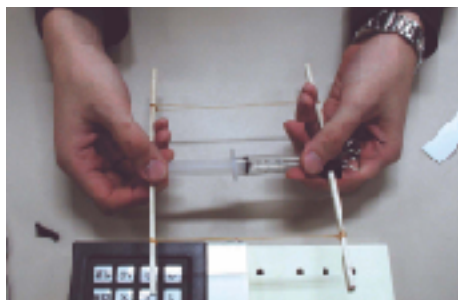


写真2 輪ゴムと使い捨ての注射器での高分子粘弾性体験実験

普段コンピュータばかり使う学科の学生はもっと面白がってこの実験をしていました。やはり“手を動かす”面白さは、人間の根元的なものかもしれません。

(4) 高分子材料の粘弾性を理解する：高分子材料を使う上で、粘弾的な性質の理解は重要なのですが、多くのモデルや数式が押し寄せてきて、取っつきにくい部分となっています。そこで、輪ゴムと使い捨ての注射器(針なし)などから、簡単なモデル(写真2)を講義中に各自作製し、これを様々な速さで実際に引っ張ったりして、その手応えの変化などから、頭の中にしかなかったモデルを手にするすることで、より理解を深める工夫をしました。(動画画像でお見せできないのが残念です。)

その他にも色々な工夫をしている講義や演習は沢山あります。小学校や中学校のように授業参観もしています。その一例を写真にとりました。コンピュータグラフィックスの演習風景です。新入生にはノートパソコンの必携をすすめています。工学部のほとんどの教室は、この写真のようにパソコン画面を直接スクリーンに映写することができますし、インターネットにつなげるコンセントや無線設備も完備しています。この講義でも先生のパソコン画面をスクリー



写真3

ノートパソコンによるCGの演習

ンで見ながら、ノートパソコンで自分で演習をしています。楽しそうですね(ほんとは難しいんですけど)。

みなさんも山口大学工学部に来て、楽しい工夫された授業を受けてください。

入学しなければ受けられないって？

そのとおりですが、実は体験学習もできます。

また、皆さんの高校と相談しなければなりません。授業を受けて高校の単位にすることも可能です。

体験学習や見学の希望は、いつでも連絡してください。ホームページも見てくださいね！

ところで、これを書いている私の授業は面白いかという質問があるかもしれませんね。学生に聞いてみます(ちょっと弱気)。

入 試 情 報 案 内

各学部入試問い合わせ先

学部等	所 在 地	電話番号	メールアドレス
人文学部	〒753-8540 山口市吉田1677-1	083-933-5209	h-gakumu@yamaguchi-u.ac.jp
教育学部	〒753-8513 山口市吉田1677-1	083-933-5307	info-g@edu.yamaguchi-u.ac.jp
経済学部	〒753-8514 山口市吉田1677-1	083-933-5506	kgakumu@yamaguchi-u.ac.jp
理学部	〒753-8512 山口市吉田1677-1	083-933-5210	gakumu@sci.yamaguchi-u.ac.jp
医学部	〒755-8512 宇部市南小串1-1-1	(医学科) 0836-22-2053 (保健学科) 0836-22-2135	(医学科) gakumu@yamaguchi-u.ac.jp (保健学科)
工学部	〒755-8611 宇部市常盤台2-16-1	0836-85-9009	eg-under@yamaguchi-u.ac.jp
農学部	〒753-8515 山口市吉田1677-1	083-933-5811	aggakmu@yamaguchi-u.ac.jp
学務部入試課	〒753-8511 山口市吉田1677-1	083-933-5153	nyushi@yamaguchi-u.ac.jp

各大学院入試問い合わせ先

学部等	所 在 地	電話番号	メールアドレス
人文学研究科	〒753-8540 山口市吉田1677-1	083-933-5209	h-gakumu@yamaguchi-u.ac.jp
教育学研究科	〒753-8513 山口市吉田1677-1	083-933-5307	kgakumu@edu.yamaguchi-u.ac.jp
経済学研究科	〒753-8514 山口市吉田1677-1	083-933-5506	kgakumu@yamaguchi-u.ac.jp
医学研究科	〒755-8505 宇部市南小串1-1-1	083-933-2058	medicine@yamaguchi-u.ac.jp
理工学研究科	(理学系) 〒753-8512 山口市吉田1677-1 (工学系) 〒755-8611 宇部市常盤台2-16-1	(理学系) 083-933-5210 (工学系) 0836-85-9010	(理学系) gakumu@sci.yamaguchi-u.ac.jp (工学系) eg-gradu@yamaguchi-u.ac.jp
農学研究科	〒753-8515 山口市吉田1677-1	083-933-5811	aggakmu@yamaguchi-u.ac.jp
東アジア研究科	〒753-8514 山口市吉田1677-1	083-933-5597	eastasia@yamaguchi-u.ac.jp
連合獣医学研究科	〒753-8515 山口市吉田1677-1	083-933-5937	renjuu@yamaguchi-u.ac.jp

山口大学入試情報

あなたは **180489** 人目の求学者です。(平成12年10月5日より)



新着情報

重 要

平成16年度山口大学入学者選抜における大学入試

センター試験の利用教科・科目の変更について

(なお、平成15年度は平成14年度と同じ教科・科目です)

お知らせ

入試成績開示

MENU
TOP

(4月11日更新)

平成14年度
入学試験実施状況

MENU
TOP



AO入試

(平成15年度入試)

新着情報

AO入試概要

医学部学士編入学



入試実施概要

ご覧ください

(平成14年度入試の概要ですので参考までにご

<http://www.sv.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~nyushi/menu/menu.htm>

おいでませ、山口大学へ

山陽新幹線の小郡駅で山口線に乗り換え、国道9号線を左手に、右手に田園風景を見ながら約20分で湯田温泉駅に着きます。降車すれば白狐のゆう太くんが「ようおいでました」と出迎えてくれます。榎野川を渡り、ガンソリスタンド、スーパーマーケット、学生マンション、CD・書店、食堂、弁当屋を見ながら山大通りを直進すると、湯田温泉駅からおおよそ徒歩20分で、正面に山口大学正門が見えてきます。

吉田キャンパス(山口市)、そこは入学者全員が共通教育の授業を履修して1年間を過ごすキャンパスです。その後も教育学部、経済学部、人文学部、理学部、農学部の学生は専門教育を受講して同じキャンパスで過ごします。宇部キャンパス(宇部市)、そこは工学部と医学部の学生が専門教育を受けるキャンパスです。両キャンパス、車で1時間程度の距離です。連絡バスやテレビ会議が整備されていますが、多少の不便さは……。

ここ最近、理学部の改修は終わり、農学部の改修が始まります。さらに共通教育棟の改修も計画されています。吉田キャンパス内で最も高層で学部の枠を越えて利用される「総合研究棟」は最近完成し、緑豊かな附属農場の果樹園の横にあります。学生のための福利厚生施設も充実されてきました。建物だけではありません。「手ごろな値段」で「美味しい」食事が食べられること、「快適な雰囲気」のなかで食事ができること、と言う良いキャンパスの必要条件も整っています。豊かな芝生、木陰での友達や先輩後輩、そして教官との話らい、心地良く時間を過ごせます。

「よく学び、よく遊ぶ」というモットーがあります。よく遊びの一環として、大学生生活の思い出の1ページを成すのが、祭とクラブ・サークル活動です。山口大学には2つの祭があります。7月には吉田祭である七夕祭、秋には広く市民に開放された大学祭である姫山祭。艶やかな浴衣姿の女性、法被姿の実行委員の学生、クラブやサークルの模擬店(食べ物の値扱は多少高めかも?)、そして学生バンドのコンサート。

緑豊かなキャンパス、春は桜と新緑、夏は木陰と爽やかな嵐、秋は紅葉、冬は数回の雪景色…、という四季折々の色、風、香りを味わえます。ゼミの教官と学生たち、クラブの先輩後輩であろうか、春の花見の宴。普段はTシャツにジーンズの学生が、研究集会・学会の手伝いであろうか、リクルートスーツを着て颯爽と大學生会館から両脇に資料を抱えて歩いて出てくる。並木道を颯爽とペダルを漕いで通学、帰宅する学生、まったく絵になる四季を通じた毎日の光景です。学生のエネルギーで活気あるキャンパスを離れると、市内には名所旧跡が多く、そこは「西の京」の雅、歴史文化を学べる豊かな知の宝庫です。

先輩に熱く歓迎されて入学し、多少悩み、何かに熱中し、友を作り、友と熱く議論し、そして「学び」「遊び」、卒業研究やゼミを通して山口大学のモットー「発見し、はぐくみ、かたちにする。」を学び感じ取った頃、指導教官や後輩に送られる卒業はもう目と鼻の先です。

写真で見るキャ

施設



七夕祭・姫山祭



サークル

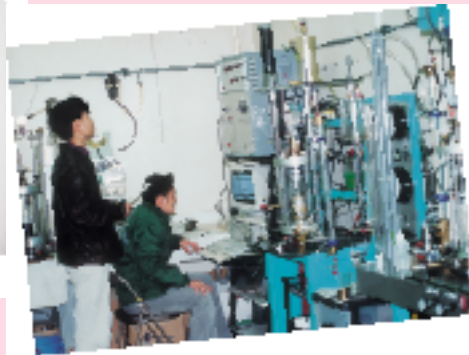


ンパスライフ

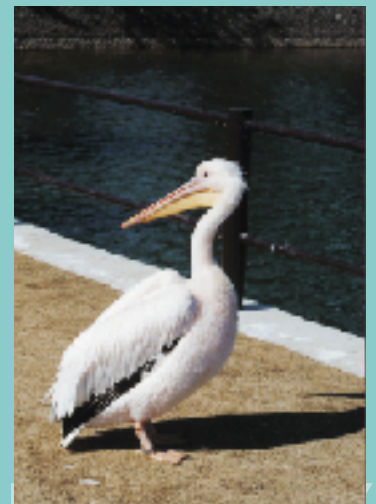
四季



実験



入学から卒業まで



サークル紹介

★体育会公認サークル

サークル名	活 動 内 容	活 動 場 所	活 動 時 間
合気道部	5月 新入生歓迎合宿 6月 関西学生合気道競技大会 男子団体 3位 女子団体 3位 8月 西日本合気道競技大会 9月 夏合宿 10月 全国学生合気道競技大会 国際合気道競技大会 12月 関西学生新人合気道競技大会 3月 昇段審査	第一武道場	(月・金) 19:00～21:00 (火～木) 17:00～19:00 (土) 10:00～12:00 15:30～17:30
アイスホッケー部	3月中旬 中四国学生アイスホッケー・リーグ戦 9月 合宿 11月中旬 中四国学生アイスホッケー・トーナメント戦	下松スケートリンク 経済学部裏駐車場	(月・木) 20:30～22:30 (水) 16:00～19:00 (夏期は月・水・金)
アーチェリー部	4月 玉座予選 8月 個人選手権大会予選 5月 玉座決勝 9月 夏合宿 新歓コンパ 11月 五大 工学部記録会 1月 追い出しコンパ 7月 個人選手権大会予選 3月 春合宿	アーチェリー場 (吉田寮裏)	(月・火・金) 17:00～19:30 (水) 16:00～19:00 (土) 10:00～12:00 13:00～15:30
アメリカンフットボール部	中四国地区1部リーグ参加 (昨年度2位) 4月～6月 春期オープン戦 9月～10月 中四国学生1部リーグ戦	ラグビー場	(火～金) 16:30～18:00 (土～日) 9:00～12:00
應援團	4月 新歓フェスティバルにてアピール・勧誘 6月 中国五大学夏季大会結団 (社行) 式 9月 中国五大学夏季大会 10月 中国五大学冬季大会結団 (社行) 式 11月 中国五大学冬季大会 2月 受験者応援	第1体育館付近	主に結団式 (社行式) や五大 の前2週間 (毎日)
オリエンテーリング部	5月 新歓ベアOL 8月 夏合宿 (ショートインカレセレクション) 11月 ショートインカレ 12月 インカレセレクション 1月 山大大会 3月 インカレ	山大周辺	(月・水・木) 16:30～18:00
空手道部	2/10 追い出し稽古 9/9 中四国大学選手権大会 2/11 寒稽古 (～17) 10/13 国民体育大会 (／17) 5/6 国体予選 11/4 山口県大会 5/13 中四国大会 11/23 全日本空手選手権大会 5/27 西日本大会出場 11/25 JKS中国大会 7/29 ミニ国体 9/2 中国五大学学生競技大会	第1武道場 (月・火・木～土) 第2武道場 (水)	(月・水・木) 17:00～19:00 (火・金) 19:00～21:00 (土) 15:00～17:00
器械体操部	9月 中国五大学学生競技大会 男子団体総合3位 女子団体総合2位 女子個人総合1位 藤本頼子 10月 中国四国大学学生競技会 男子団体総合4位 女子団体総合3位	第1体育館	(月・火) 17:00～19:00 (水～金) 19:00～22:00 (土) 14:00～18:00 *男子のみ
弓道部	4月 中国学生大会 5月 全国大学選抜大会 西日本学生選手権大会 8月 全日本学生選手権大会 9月 中国五大学学生競技大会 10月 中四国選手権大会 (練習内容) 団体練習 (巻藁、行射、見取りなど) 強化練習 (大会2週間前ほどより 選手中心に行う) 個人練習 合 宿 (春1回、夏2回)	弓道場	(月～金) 17:30～19:30 (土) 10:00～12:00
極真空手部	[練習内容] ストレッチ、基本稽古、移動稽古、型稽古、シャド ーボクシング、ミット稽古、受け返し、スパーリング、 補強 (腕立て、スクワット、腹筋) [年間スケジュール] 春・夏・秋に昇級審査があって、試合が年2～3回 あります	(水) 第1武道場 (土) 第2体育館 (月・金) MIWA歯科4階	(月・水・金) 19:00～21:00 (土) 16:00～18:00

サークル名	活 動 内 容	活 動 場 所	活 動 時 間
剣道部	(1) 試合 西日本学生大会、中四国学生大会、中四国学生大会新人戦、中国五大学学生競技大会、三大学対抗戦、九州工業大学戦 (2) 合宿 年2回	(月・水・土) 第1武道場 (火・木・金) 第2武道場	(月・水) 19:00～21:00 (火・金・土) 17:30～19:00 (土) 10:00～12:00
硬式庭球部	3月下旬 春季中四国学生テニストーナメント(～4月上旬) 5月 愛大定期戦 6月中旬 中国学生トーナメント 8月中旬 夏季中四国学生テニストーナメント 9月 中国五大学学生競技大会 10月 中四国新進テニストーナメント 3月 全日本大学対抗テニス王座決定試合	山口大学テニスコート	(火・水・金) 16:30～日没 (土) 9:00～12:00
硬式野球部	4月～5月 中国大学リーグ(春季)二部 優勝 9月 中国五大学学生競技大会 優勝 9月～10月 中国大学リーグ戦(秋季)二部 2位11 月 三経戦(大分大学、長崎大学との交流戦) 3月 愛大戦(愛媛大学との交流戦)	山口大学野球場	(平日) 14:30～16:30 16:30～19:00 (休日) 9:00～13:00 13:00～18:00 *月曜は休み
ゴルフ部	練習場での打ちっ放し ゴルフ場でのラウンド 年4回の部内コンペ 夏・冬合宿	姫山ゴルフセンター 湯田C.C	全体練習 毎週木曜日 8:00～10:00 自主練習 9:00～17:00 (月～金) 7:30～10:00 (土・日・祝) 7:30～10:00
サイクリング部	4月 オープンサイク 8月・9月 夏合宿 5月 大峠TT 10月 大峠TT 新歓サイク 耐久レース 6月 2年主催サイク 3月・4月 春合宿	山口市内の峠	(月・水・金) 先発 16:20～ 後発 17:50～ (土) 9:30～
サッカー部	4月 県学生リーグ 11月 五大(H13.優勝) 5月 総理大臣杯 12月 入れ替え戦 6月 東西順位決定戦 3月 野上杯 7月 天皇杯県予選 9月～10月 中国学生リーグ(2部 H13.優勝)	山口大学サッカー場	(月～金) 16:30～20:00 (土・日) 10:00～13:00
山岳部	6月 新歓山行 8月 夏山合宿 9月 秋山個人山行 12月 冬山プレ合宿 冬山合宿(～1月) 3月 春山個人山行	姫山周回コース 大学裏の神社 共通教育棟	(月・水・金) 17:50より 1時間半程度及び各週末
自動車部	4月 全中四国学生ジムカーナ選手権大会 5月 全中四国学生ダートトライアル選手権大会 12月 常盤祭ジムカーナ大会	自動車部部室(吉田寮横)	(土) 13:00～
柔道部	5月 中国四国学生柔道優勝大会 6月 全日本学生女子柔道優勝大会 7月 全国国立大学柔道優勝大会 国民体育大会県予選会 8月 中国四国学生柔道体重別選手権大会 11月 山口県体育大会 中国五大学学生競技大会 12月 三大学経済学部対抗戦	(月・金・土) 第1武道場 (火・木) 18:00～19:00 グラウンド 19:00～20:00 第1武道場	(月・金) 17:00～19:00 (火・木) 18:00～20:00 (土) 13:00～15:30
準硬式野球部	4月下旬 定期戦 5月上旬 春季リーグ戦 7月上旬 五大学競技会 10月中旬 秋季リーグ戦 11月上旬 OB戦 11月中旬 引退試合	山口大学野球場	(月～金) 14:30～16:30 or 16:00～18:00 (土・日) 9:00～13:00 or 13:00～18:00 (休みあり)
少林寺拳法部	4月 中四国学生大会 6月 山口県大会 8月 合宿 10月 山口県大会 11月 西中国学生大会	(月) 第2体育館 (火～土) 第1武道場	(月～水・金) 17:00～19:00 (木) 19:00～21:00 (土) 13:00～15:00
水泳部	5月 北九インカレ 6月 中国・四国学生選手権 7月 中国五大学学生競技大会 中国・四国学生選手権兼国公立大学選手権 8月 全国国公立大学選手権出場 交流戦 *各種コンパあり	合同ガスプール(10月～5月) 山口大学プール(5月～8月)	(月～金) 17:00～19:00 (土) 10:00～12:00

サークル名	活 動 内 容	活 動 場 所	活 動 時 間
スキー部	5月 新歓合宿 夏休み中に、合宿 1月 全日本学生スキー選手権 3月 全関西スキー選手権大会	陸上競技場	(月・金) 18:00～20:00 (水) 14:40～16:20 (土) 10:00～12:00
ソフトテニス部	4月 中四国九州三地区学生選手権 5月 中国リーグ戦 6月 山口県学生選手権(春) 8月 中国学生選手権 9月 中国五大学学生競技大会 10月 中四国学生選手権 11月 山口県学生選手権(秋)	山口大学テニスコート	(平日) 16:40～ (土・日) 9:00～
卓球部	5月 春学連 8月 夏学連 9月 五大 11月 会長杯 12月 新人戦他、市民戦に積極参加 月2回部内でリーグ戦	(月・火) 第2体育館 (水～日) 第1体育館	(月・水・金・土) 18:30～22:00 (火・木・日) 20:00～22:00
軟式野球部	春期I部リーグ戦 6位 中国五大学学生競技大会夏季大会 優勝 秋期I部リーグ戦 7位	山口大学野球場 ふしの川河川敷	(平日) 16:00～18:30 (土・日・祝) 9:00～12:30
馬術部	2～3月 春季中四国学生馬術競技会 8～9月 夏季中四国学生馬術競技会 他、県内大会が年6回	山口大学馬場	(平日) 17:00～ (休日) 8:00～ 季節により変動
バスケットボール部(女子)	5月 中国選手権大会 10月 春季県リーグ 秋期県リーグ インカレ予選 11月 中国五大学学生競技大会 12月 三地区対抗戦	第1体育館	週5日 2時間程度
バスケットボール部(男子)	4月 三大戦、市民戦 11月 市民戦、中国五大 5月 中国選手権 県リーグ(春) 12月 三地区、忘年会 6月 県一般 1月 三経戦 8月 海合宿、OB戦、市民戦 2月 市民戦 9月 ALL JAPAN予選 3月 おいだし戦 10月 県リーグ(秋)、インカレ予選	第1体育館	(月) 16:00～18:00 (火) 19:00～22:00 (水) 16:00～19:00 (金) 17:00～19:00 (土) 10:00～13:00 (土・日) OFF
バトミントン部	4月 中四国リーグ戦 10月 県学生バトミントン大会 5月 県学生バトミントン大会 11月 中・四・九大 6月 中四国大会 12月 学長杯駅伝大会出場 8月 中国大会 9月 中国五大学学生競技大会	第1体育館(月) 第2体育館(火～木・土)	(月・水・木) 18:00～20:30 (22:00) (土) 9:30～12:00 (14:00)
バレーボール部(女子)	4月 中国リーグ 春季大会(現在:2部2位) 7月 県リーグ 春季大会 9月 中国五大学学生競技大会(3位) 10月 中国リーグ 秋季大会 12月 県リーグ 秋季大会 *大会以外でも、OB会(山排会)・忘年会・追コンなどの行事がある	第2武道場	(月・火・木・金) 18:00～22:00 (土) 9:00～13:00
バレーボール部(男子)	4月 中国リーグ戦春季大会 (2部リーグ 3位) 5月 中四国学生バレーボール大会 (欠場) 6月 山口県大学高専大会春季大会(Aリーグ 4位) 9月 中国五大学学生競技会 (3位) 10月 中国大学リーグ戦秋季大会(2部リーグ 2位) 11月 山口県大学高専大会秋季大会(2回戦敗退) 12月 三経戦 (優勝) *カッコ内は13年度成績	第2武道場	(月・火・木・金) 18:00～22:00 (土・祝) 9:30～13:00
ハンドボール部	4月 山口県春季リーグ戦 (優勝) 5月 中四国学生選手権(春季) [2部2位] 8月 中四国学生選手権(秋季) [2部2位] 11月 中国五大学学生競技大会 [2位] 山口県秋季リーグ戦 [2位]	第1体育館(火) ハンドボール場 (水・木・土・日)	(火) 18:30～22:00 (水・木) 16:00～18:30 (土・日) 9:30～12:00 (月・金) 休み
ボート部	5月 朝日レガッタ 8月 西日本大学レガッタ 九州朝日レガッタ 全日本大学学生選手権 6月 県知事兼国体予選 オックスフォード盾レガッタ 7月 瀬戸杯 10月 中国学生選手権大会 関西学生選手権	乗艇 :小野湖 陸トレ :山口大学陸上競技場	(月～水・金) 17:50～20:00 (土) 9:00～
ヨット部	毎週末は秋穂の合宿所にてヨットの練習をしています。 試合で一番大きいのは、夏にある中国インカレであり、全国大会出場目指し、一致団結し頑張っています。	山大にてトレーニング(水) 秋穂中道湾にて合宿(土・日)	(水) 2時間 (土・日) 合宿
ラグビー部	4月 山口県社会人リーグ(～6月) 8月 合宿(湯布院) 9月 山口県学生リーグ(～11月) [2位] 11月 中国五大学学生競技大会 [3位]	山口大学ラグビー場	(平日) 16:30～

サークル名	活 動 内 容	活 動 場 所	活 動 時 間
陸上競技部	5月 山口県選手権 [主な戦績] 中四国インカレ 4×100mR、4×400mR 6月 西日本インカレ 全日本リレー選手権出場 9月 中国五大学対抗戦 (2年連続) 全日本大学駅伝予選 兼重仁彦(経済4) 中四国学 10月 中四国個人戦 連選抜として出雲駅伝出場 12月 中四国学生駅伝 中国五大学学生競技会 1月 中国山口駅伝 2位 その他各種記録会	山口大学陸上競技場 維新公園陸上競技場	(平日) 16:00～18:30 (土) 10:00～12:30 (日) 休み
ワンダーフォーゲル部	4月 新歓登山(東鳳翔山) 1月 雪上訓練 5月 県内合同ワンデリング 2月 録成(春合宿に向けて) 6月・7月 録成(夏合宿に向けて) スキー合宿(大山) 8月 夏合宿(北アルプス) 3月 春合宿 11月 清掃ワンデリング(東鳳翔山)	大学周辺の神社・河原	(月・金) 18:00～19:00 (火) 16:30～18:00 (水) 18:00～(部会等)

★文化会公認サークル

サークル名	活 動 内 容	活 動 場 所	活 動 時 間
E.S.S	○ディレブプラクティス 年間スケジュール Pronunciation(発音)、Intonation(抑揚) ・SYEL,Camp Daily Conversation(日常会話)が中心 ・ケネディスピーチコンテスト ○セクション活動 ・姫山ディベティング・トーナメント ディレブプラクティス終了後、ディベート、 ・ESS.パーティー ディスカッション、スピーチ、IS(通訳学習) ・レクリエーション活動 ドラマの5セクションに分かれて行う ・夏Camp.L.E.S.S.C.Camp ・1年生スピーチコンテスト ・山大O.D.M ・Fare Well Party ・春Camp	教育学部又は 経済学部の教室	(月・水・金) 18:00～21:30
映画倶楽部	4月 新歓上映会 コンパ等 5月 新歓ポップコーン劇場 ・新歓コンパ 8月 合宿 ・夏休み突入コンパ 12月 クリスマスポップコーン劇場 ・部長お疲れコンパ *その他自主制作映画上映会の ・クリスマスコンパ 日程は、映画完成後に話し合う ・卒業生追い出しコンパ ・上映会 ・ポップコーン劇場打ち上げ ・その他要請があればいつでも	部会:部室 (弓道場横プレハブの真ん中) 映画製作:どこでも	(月・水) 18:00～(部会) 映画製作 いつでも (水)
演劇部	4月 春公演 5月 寸劇 8月 夏合宿 *その他コンパ、パーティートークショーなど 12月 冬合宿 てんこもりでございます。 3月 春合宿	共通教育14番教室周辺	基本的に月・水・金曜日の 18:00～
管弦楽団	4月 新歓コンパ 5月 合同演奏会 6月 新歓ハイク 8月 夏合宿 12月 定期演奏会 3月 団内演奏会、追い出しコンパ、春合宿	音楽教習棟	(火・木) 18:00～20:30 (土) 17:00～20:00
吟詠部	3月 合宿 5月 新歓合宿 この他にも、スポーツ、コンパetc 6月 発表 イベント盛りだくさん! 8月 合宿、キャンプ 全国の大学と吟詠を通じた交流があり、 11月 発表大会 多くの人たちと楽しくキャンプ 1月 追い出しコンパ	共通教育棟ロータリー	(月・水・金) 18:00～20:00
考古学部	○巡視活動・春・秋年2回、山口盆地の遺跡等を見て回ります。 ○巡検活動・年3回、県内外の遺跡を見学します。今年は“奈良”に 行く予定です。 ○実測活動・山口盆地内の遺跡を実測します。 その他コンパ・レクリエーションあります。(焼き肉とか餅つきとか...)	主に野外	(金) 18:00～(部会) (土・日) 不定期
混声合唱団	4月 入学式の祝賀演奏 11月 中四国音楽美連盟演奏会 新歓行事 12月 第30回定期演奏会 6月 山口大学文化祭 クリスマスマサ 8月 夏期合宿 3月 卒業式祝賀演奏 9月 巡回演奏 *その他団内でのイベントがたくさんあります	音楽練習棟(小)	(月・水・金) 18:00～20:45

サークル名	活 動 内 容	活 動 場 所	活 動 時 間
茶道部	4月 強化練習・新歓フェスティバル 5月 新歓コンパ 手づくね会 春のお茶会 8月 強化練習 12月 冬のお茶会	サークル棟和室	(月・水) 16:00～
写真部	4月 春期学内写真展・芸術祭 新歓撮影会 5月 新歓合宿・新歓コンパ 6月 水無月写真展・文化祭 8月 夏合宿・撮影会 11月 鏡と窓写真展	BOX	毎週水曜 18:00～
将棋部	5月 中四国学生将棋大会(春) 11月 同 上 (秋) (個人戦と団体戦があり、団体戦は7人で行います) *アマチュア大会は随時参加	経済学部D103	18:00～21:00
吹奏楽部	4月 新入生歓迎演奏会 6月 音楽祭 8月 吹奏楽コンクール県大会 " 中国大会 夏合宿 10月 サビエルチャリティコンサート 11月 中四国音楽連 12月 クリスマスコンサート 1月 アンサンブルコンテスト 2月 合宿 3月 定期演奏会 成績:コンクール県大会…金勝 中国大会…金勝 アンサンブルコンテスト県大会 …金賞・県代表	第2体育館裏、立て看板置き場裏 共通教育の教室、大学会館等	(月・水・金) 18:00～20:00 (土) 13:00～16:00
洞穴研究会	5月 理学部訓練 新歓合宿 新歓コンパ 6月 30m級昇降訓練 8月 夏合宿 11月 公開ケイビング 2年生総合訓練 12月 冬合宿 3月 春合宿 1年生総合訓練	月・水・金 文化会サークル棟 土・日 秋吉台	(月・金) 18:00～ (土) 16:30～
美術部	4月 新入生歓迎美術展→学内美術展 6月 春季パンのみみ展 学外美術展 11月 秋季パンのみみ展 *その他美術展随時行う	弓道場横のプレハブ棟	(月・水・金) 18:00～
文芸部	4月 「空想の世界 新歓号」発行 新歓コンパ 新歓ハイク 6月 「空想の世界 夏の号」発行 7月 夏休み突入コンパ 8月 キャンプ 10月 「プリズマ49」発行 12月 忘年会 1月 「空想の部屋 冬の号」発行 2月 追い出しコンパ	サークル棟内文芸部BOX 大学会館	(水・金) 18:00～
邦楽部	6月 音楽祭 5月～6月 老人ホーム演奏 8月 中国地区大学邦楽交流会、夏合宿 11月 アートふる山口 12月 定期演奏会 2月 春合宿 3月 卒業演奏会	サークル棟和室	(火・木) 17:50～19:20 (土) 9:00～12:00
マンドリンクラブ	4月 県マン演奏会 5月 スプリングコンサート 12月 冬の定期演奏会 ↑これらのために合宿を春に2回、夏に1回 ・年2回、冬と夏に部内演奏会 ・クリスマス会や新歓ハイクのあります ・他に音楽祭への参加や、大学祭への参加もします。	校内サークル棟	(月・水・金) 18:00～21:00
ユースホテルクラブ	4月 新歓ドライブ 5月 新歓コンパ 6月 新歓ホステリング(1泊2日の旅行) 新歓ラリー(親睦会) 7月 セタ祭 お疲れさまコンパ 8～9月 キャンプ 夏季ホステリング(無期限、無制限の旅行) 11月 秋季ホステリング(2泊3日の旅行) 12月 クリスマスコンパ 2月 スキー *随時ドライブなど	サークル棟、または山口県内外、 または日本各地	(水・金) 18:00～

TOPICS

第1回運営諮問会議

加藤新学長のもと 第2期山口大学運営諮問会議がスタート

平成12年度に設置した第1期運営諮問会議に続き、第2期運営諮問会議の初会合が6月21日に事務局特別大会議室において開催されました。当日は、新委員5名を含む10名の委員のうち9名が出席し、議長に松野浩二委員が選ばれ、副議長には岩田啓靖委員が指名されました。また、本学からは陪席として加藤学長、平野、小嶋、丸本副学長、各部局長、櫻井事務局長の他事務局各部長等の関係職員が出席しました。

第1期においては、「地域社会における山口大学の在り方について」、「社会が求める学生教育の在り方について」、「学生生活の充実について」の三つの諮問事項に対し、学外の様々な角度からの意見を基に「提言」が出され、本学では、これに対する課題に取り組んでいるところです。

第2期の運営諮問会議では、加藤学長から冒頭挨拶の後、本学における当面の課題として、国立大学法人化の問題に関して説明があり、法人化後の山口大学の在り方について意見を承りたい旨が述べられました。

本会議はこれを受けて、タイムスケジュールを視野に入れ、大学側で検討が進められている計画に反映できるよう提言していくことが了承されました。

なお、本会議は、年4回の開催が予定されており、次回の運営諮問会議は平成14年9月17日(火)に開催することが決まりました。



TOPICS



山口大学運営諮問会議委員名簿

氏 名	現 職 等
秋 本 穰	元伊藤忠商事(株)副社長
副 議 長 岩 田 啓 靖	山口県立大学長
佐々木 孝 治	元宇部テクノエンジ(株)代表取締役社長
高 石 道 明	信州大学教授
中 澤 晶 子	山口大学名誉教授
中 東 素 男	宇部興産(株)相談役
福 田 百合子	中原中也記念館館長
藤 井 俊 彦	山口県教育委員会教育長
星 出 文 生	山口県光青年の家所長
議 長 松 野 浩 二	日立金属(株)名誉相談役

(50音順)

(文責：総務部企画室 重本隆之)

TOPICS

AO入試

アドミッション・オフィス入試説明会を開催！

— 多面的、総合的に評価する“ユニークなAO入試” —

■ 堀江 穆 アドミッションセンター教授(AC広報担当)

アドミッションセンターでは、高等学校教員を対象とした「平成15年度山口大学アドミッション・オフィス入試（AO入試）説明会」を、5月23日(木)13時30分から、大学会館ホールにおいて開催しました。当日は、東は岐阜県から西は鹿児島県まで合計92校、114名（県内：51校69名、県外：41校45名）の参加がありました。

平成14年度入試から、学力検査を行わず、いろいろな観点から学習意欲、目的意識、行動力、適性などを多面的、総合的に評価する“ユニークなAO入試”を実施しています。

説明会では、三浦房紀アドミッションセンター長が挨拶した後、現状やAO入試導入に至った経緯、さらに15年度の入試概要などについて説明しました。また、大久保敦助教授が、平成14年度入試の受験



生アンケートの結果、入学までに取り組むべき課題や入学後の学習のための準備指導などについて、プロジェクターを使って現況を報告しました。

説明会後半は、高校側から「大学で学ぶのに必要な学力はどこで評価するのか?」、「エントリー段階の面談や体験授業も最終の合否に影響するのか?」など、さまざまな質問がありました。他大学に比べてひと味違うAO入試の中身を確認する質問が多く関心の高さをうかがわせました。

☎083-933-5168

E-mail: horie@yamaguchi-u.ac.jp



TOPICS

大学入試センター試験

山口県東部の 受験生に朗報！

— 来年から徳山大学と
岩国高等学校が
センター試験新会場に—



■ 丸本 卓哉 副学長

来年1月の大学入試センター試験から、新たに県東部の徳山大学と岩国高等学校に試験会場が設けられます。

これまでは山口大学、下関市立大学、山口県立大学、山口東京理科大学、東亜大学、梅光学院大学及び萩国際大学（7大学9会場）の中部・西部・北部地区でセンター試験を実施していましたが、山口県東部にはセンター試験利用大学がなく、したがって会場がありませんでした。

例年、センター試験時期は天候不順で、雪が降った場合の交通機関のダイヤの乱れを危惧して、東部地区の受験生は山口市内の試験会場近くに前日から宿泊して受験していました。受験生の心理的負担、宿泊費等の経済的負担が重く、以前から山口県高等学校長会、山口県教育委員会及び東部地区の父母会から改善を求められていました。来年から新たに徳山大学がセンター試験の利用大学となり、試験場を設定します。しかし、地元の周南地区を受け持つのが限度で、岩国・柳井地区

までは補い切れません。徳山大学のセンター試験利用を機に、県内大学が東部地区への試験会場の配置を協議し、その結果、下関地区の東亜大学、梅光学院大学の2会場の設置を隔年設定にして1会場分を徳山大学に充て、山口大学の医学部を工学部に統合して、この1会場分を岩国高校の協力を得て学外試験場としました。岩国高校の試験会場では、宇部フロンティア大学と本学の教職員が高校教諭の協力を得てセンター試験を実施します。

今年のセンター試験では、県内全域で6,934人が受験し、そのうち東部地区受験生2,181人が山口市内の試験会場に割り当てられました。

来年は周南地区の受験生700～800人が徳山大学で、岩国・柳井などの地区の受験生1,300～1,400人を岩国高校で受け入れます。

このことにより、東部地区の受験生は地元受験が叶い、県内受験生がほぼ同条件で試験に臨むことが可能になりました。

TOPICS

平成14年度大学入試センター試験県内受験者一覧

下関市	1,255	
豊浦郡	80	
美祢市	46	
小計	1,381	
厚狭郡	102	
小野田市	253	
小計	355	
宇部市	824	
小計	824	
大津郡	4	
長門市	167	171
美祢郡	14	
阿東町	8	
吉敷郡	277	
山口市	981	1,280
佐波郡	8	
防府市	519	527
都濃郡	1	
新南陽市	137	
徳山市	468	606
下松市	344	
光市	226	
熊毛町	13	583
熊毛郡	93	
柳井市	211	
大島郡	42	
玖珂郡	84	
岩国市	562	992
小計	4,159	4,159
阿武郡	4	
萩市	211	
小計	215	
合計	6,934	

平成14年度大学入試センター試験大学別分担数

		平成13年度 (実績)	平成14年度 (実績)
	志願者推計数	7,100	7,200
山口大学	人文学部	620	565
	教育学部	610	795
	経済学部	680	680
	理学部	680	648
	農学部	674	545
	小計	3,264	3,233
	医学部	310	300
	工学部	571	524
	小計	881	824
	計	4,145	4,057
	下関市立大学	800	800
	山口県立大学	1,000	1,000
	山口東京理科大学	346	355
	東亜大学	338	381
	梅光学院大学	200	200
	萩国際大学	227	215
	合計	7,056	7,008

TOPICS

地域産業の活性化

タウンミーティング イン 山口

■ 下川 辰彦 総務部研究協力課長

「元気な中小企業と産業の未来」をテーマとして小泉内閣の閣僚らと住民が直接対話する「タウンミーティング イン山口」が6月8日(土)に宇部市の宇部短期大学で開催されました。平沼赳夫・経済産業大臣と松下忠洋・内閣府副大臣の出席の下、地元を代表して加藤紘一・山口大学長、大橋光博・西京銀行頭取らが壇上に並び産学官が一丸となった中小企業への支援体制が強調されました。

加藤学長から山口大学における全国初の医工連携による先進医療機器の開発など本学の「産学公連携」の取り組みが紹介され、「大学が元気」で「地域も元気」になり、そして「大学がさらに発展する」好循環モデルの実現を図るためには、大学の知的財産を地域産業の活性化に役立てたい。そのためにも組織的な支援を国も考える時期ではとの提言がなされました。

また、大橋頭取からは山口県の都市機能分散のメリット、デメリットなど、本県の産業構造や金融面の特色が述べられ、官主導から民間主導への創意工夫、特に女性と若者の活用の必要性などが強調されました。

このあと、両大臣と会場の市民（約380人）らとの対話があり、元気な企業創出への要望が相次ぐなか、両大臣から起業家育成や知的財産保護が力説されました。



T O P I C S

海外研修を終えて

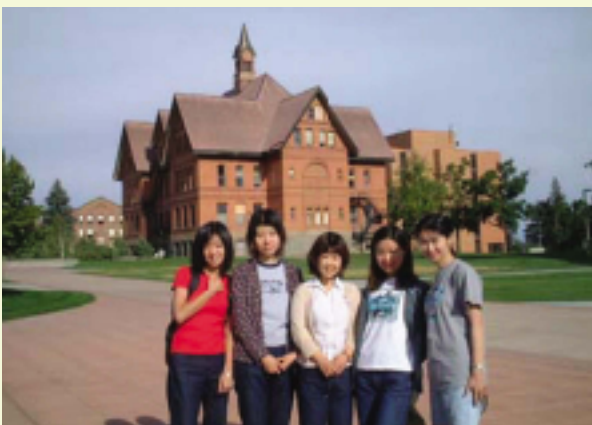
アメリカ滞在記 ～モンタナ編I～

■ 中村 浩子 総務部国際企画課国際交流係

序文

2001年6月より1年間、文部科学省主催の、国立大学職員を対象とした、国際教育交流担当職員長期研修プログラムへの参加の機会を与えていただき、1年を通じて、語学研修やアメリカの高等教育についての講義を受け、また州立大学の国際交流担当のオフィスでの実務も行い、先日6月2日に日本へ戻って参りました。アメリカにおいて経験したことを、少しでもみなさんにお伝えできればと思い、印象に残ったいくつかの出来事について紹介したいと思います。

このプログラムは、前半はモンタナ州立大学（MSU）にて主に語学研修、後半は、各々の研修生の希望大学のオフィスでのインターンシップという形になっています。今回の参加者は14名でしたが、前半は14名全員が同じモンタナで研修を受け、後半は、私はオレゴン州立大学にて実務研修を行いました。



モンタナホールという、大学のシンボルのような建物で、その前で他の研修生達と一緒に撮ったものです。

〈ボーズマンについて〉

2001年6月9日、関空より日本を旅立ち、カリフォルニア州のロス・アンジェルス、ユタ州のソルトレイクシティにて、飛行機を2回乗り換え、カナダとの国境沿いにある、モンタナ州、ボーズマン市へ到着。モンタナといえば、映画、「リバー・ランズ・スルー・イット」や「モンタナの風に抱かれて」でお馴染みの場所で、その中のボーズマン市は、人口3万人の小さな市で、公共の交通機関もない上に、代替の交通手段である車も少なく渋滞も考えられないような田舎町で、ロッキー山脈の美しい景色、自然に囲まれてのアウトドアスポーツが楽しめる雄大な場所でした。

〈ホームステイについて〉

モンタナに到着後2週間は、ホームステイを経験しました。ホームステイ先は、定年を迎えた老（？）



モンタナ州立大学で、私達のプログラムを担当してくれた、ベスと。

T O P I C S



雪の中のモンタナホールです。

夫婦の家で、独立したバスルームと寝室を提供してもらい、初めは他人の家に2週間も住むことに抵抗があった私も、快適に過ごすことができました。何から何までこちらの意思を確認し、「あなたがいやならしなくてもいいのよ。」といった感じのホストの姿勢に、最初は、自分の意見を言うのも少しとまどいがちでした。朝食にどんなものが食べたいか、弁当は自分で作りたいのか、作ってほしいのか・・・私にとってはかなり細かいと思える質問も受けましたが、向こうにしてみれば、2週間、私が自分のやりたようにのびのびと過ごせることを望んでいたのでしょう。後半の行き先のオレゴンで知り合った、日本に長年住んだ経験のあるアメリカ人によれば、日本人は、お客に対して、



ホームステイ先の裏の山の頂上から撮ったボーズマンの風景です。

あまりにも親切すぎる、何から何まで手助けしてくれて、正直言ってありがた迷惑だということでしたが、「おもてなし」の差については、私もホームステイ中に少し感じました。こちらの意思を最大限に尊重し、「お客様」といえども、お客の方から手助けを求めない限りは、不必要に親切にはしない。これは、アメリカの個人主義のなせる業なのでしょうか・・・。

次回は、寮への引越し、研修内容等について、紹介したいと思います。



ホームステイ先の裏の山の頂上から撮ったボーズマンの風景です。



ボーズマンの紅葉です。

T O P I C S

人文学部異文化交流研究施設主催の講演会

「アメリカ合衆国における
南アジア系住民」を聞いて

■ 古田 裕子 人文学部社会情報論コース

テキサス大学で地理学を教えておられるアブ・ムハンマド・アリ先生による講演会が、人文学部異文化交流研究施設の主宰で6月14日（金）2時半より、大学会館2階会議室において行われた。アリ先生は、現在のバングラデシュが東パキスタンだった頃に、その地でお生まれになり、現在は、アメリカで生活しておられる。今回の講演会でアリ先生は、南アジア系住民の合衆国への移住開始から今日までを、人口、宗教、職業構造、移住の様子、文化などの点からお話になったが、人種の垣塙とも言われる合衆国内で、南アジア系住民の生き方の一端を垣間見ることができた、大変貴重な機会であったと思う。



パソコンを使って報告するアリ先生と
通訳して下さった中田考先生

昨年9月にアメリカ合衆国内で起こった同時多発テロ事件について、南アジア系住民のムスリムたちがどのように感じていたか、そして、周囲のアメリカ人たちが実際にどのような行動をとったか、という部分が大変印象深かった。合衆国に在住するテロの実行者とは無関係のムスリムたちは自分の身にも危険が及ぶことを恐れていたが、実際には、

ブッシュ大統領を始め、多くのアメリカ人や、国内外の知人、親類、そして、おそらくムスリムでもアメリカ人でもない人たちが彼らの無事を気遣った。私は以前、合衆国に短期研修のため渡ったことがあるが、そのときのホームステイ先のホストファザーがエジプト人のムスリムだったので、この合衆国のテロ事件は遠い国の出来事ではなく、自分に降りかかった危険であったように記憶している。また、このテロ事件の後、ひとつの側面によってのみ相手を判断することへの危険性を特に強く感じた。



あいさつする田中晋人文学部長

今回の講演で、次に印象に残ったのは移住に関することだった。1890年に最初の南アジア系住民が合衆国に移り住んで来て後、家族や親類を呼び寄せたり、友人を頼って渡米したりして、徐々に彼らはコミュニティ〔例えて言うなら日本人街のようなもの〕を拡大させ、現在に至るまで、大都市近郊にインド人コミュニティやバングラデシュ人コミュニティなどを発展させてきた。彼らはア

T O P I C S

メリカとの融和を図りながらも、独自の宗教や文化を持ち込んだので、寺院やモスク、ムスリムのための肉を売っている、インド人の経営する食料品店や、サリーを販売している店もできた。2000年の合衆国の人口調査によると、およそ125万人の南アジア系住民のうち、ほぼ8割がシーク教徒と仏教徒を含むヒンドゥー教徒で、2割強がムスリムとなっている。また、今日でも祝祭日には独自の宗教的・文化的な祭りが行われている。



学生・社会人・留学生たちの聴衆で埋まった会場

移住に関する問題として、まず政府の側から見れば、不法滞在が挙げられる。合衆国政府は移民政策として、DVビザの計画を実行するなど、積極的に受け入れを行っているようだが、これは日本の移民政策とは大いに異なることだと思う。移住者の側から見た問題としては、移住してきた世代と、合衆国で生まれた世代間の価値観の違いを指摘された。合衆国内で、世代を経るに従い、そのコミュニティの文化を一部継承しながらも、より「アメリカ化」していくのではないかと推察するが、この様子を見ていくと、人の動きや生き方こそが新しい文化や価値観を、ひいては歴史を生み出していくように思え、大変興味深く感じた。現在、国際化の進行とともに、世界はますます複雑化の一途を辿り、人々の動きはより活発化する傾向にある。そのような中で、自分とは異なる文化、宗教、価値観を持つ他者を受け入れ理解していくことの重要性が今、改めて見直されるべき時に来ているのではないと思う。



私の研究

電波で見る宇宙の姿

藤澤 健太
助教授

理学部 自然情報科学科 物理学講座

電波天文学

天体は様々な電磁波を放射しています。可視光線で見える太陽はいつも変わらぬ明るさで輝いていますが、電波で観測するとわずか数分のうちに何十倍にも明るさが変わって見えることがあります。このように、天体が放射する電波を観測することによって、かつては知られていなかった天体の物理現象を研究することができます。これが電波天文学です。

電波銀河やクエーサーといった天体の存在は、電波の観測によって初めて人類が知りえたものです。数十億光年という彼方にありながら容易に観測しうるといふほど強力な電波を放射するこれらの天体は、恒星の大集団＝銀河の中心部分にある巨大なブラックホールがエネルギー源であると考えられています。巨大なブラックホールに星間ガスが落下し、そのとき放出される莫大な力学的エネルギーが何らかの機構によって超高温なプラズマに転換され、かつ光速にもせまる超高速なジェットとなって噴出しているのです。

電波の観測は恒星の輪廻についても新しい知見をもたらしました。内部で核反応が進んだ恒星は星間ガスを放出して一生を終え、放出された星間ガスは自己重力で収縮して再び恒星として誕生します。このように星間ガスという姿を通して恒星は輪廻を繰り返しているわけです。可視光線では観測が困難な星間ガスも、そこに含まれる水素原子や様々な分子が放射する電波によってくっきりと見る事ができます。希薄な星間ガスが次第に濃く集まってくる様子や、恒星誕生時に発生する高速なガスの流れなど、かつては単なる想像だったり思いもよらなかった現象が、はっきりと見えてきたのです。そして現在、恒星の誕生と同時に起きるであろう惑星系の誕生が世界的な研究の潮流

となっています。我々の太陽系が誕生した約50億年前の様子を、現在進行中の他の太陽系の誕生によって研究しようというわけです。

山口32m電波望遠鏡

電波天文観測には電波望遠鏡を使います。昨年9月、仁保地区にあるKDDI山口衛星通信所の口径32mパラボラアンテナが国立天文台に委譲され、山口32m電波望遠鏡として生まれ変わりました。次いで本年4月、私が国立天文台より山口大学に赴任し、国立天文台と共同でこの電波望遠鏡を使った研究を開始しました。主な観測対象はクエーサーが噴出するジェットの物理、そして星間ガスに含まれるメタノールの放射する電波を用いた惑星系の誕生の研究です。これらの研究は山口32m電波望遠鏡だけでもある程度は可能ですが、より高い分解能で天体の構造を研究するには他の電波望遠鏡と同時に観測する方法、すなわち干渉計とすることが必要です。まずは日本各地の電波望遠鏡と連携して実験的な観測を開始しようと努力しています。



山口32m電波望遠鏡 (KDDI山口衛星通信所内)

キャンパスにも電波望遠鏡を

山口大学キャンパスにも、口径1.2mと小型ながら電波望遠鏡を製作中です。電波望遠鏡は干渉計にすると研究対象が大きく増えるのですが、各地の電波望遠鏡を動員するのはかなりの労力を要し

ますし、既存の装置を使うため観測に適当な干渉計を形成できないこともあります。そこで山口32m電波望遠鏡とともに観測する望遠鏡を大学内にも作ろう、ということになりました。相手が32mと大型ですので、1.2mでも研究に使えるものとなります。架台は市販の光学望遠鏡用、アンテナも市販の衛星放送受信用です。まだ技術的な課題も多いのですが、このミニ・パラボラがうまく稼動し、下記のネットワーク観測を実現すれば世界的にもユニークな観測装置となり、独自の研究分野を展開できると期待しています。



研究室内に威容を現した口径1.2mのミニ・パラボラ

情報ネットワークを使った研究

ガリレオに始まる現代天文学は、新たな技術・観測方法を導入するたびに新たな発見を得てきました。山口32m電波望遠鏡、そして大学のミニ・パラボラにも最新の技術、すなわち情報ネットワークを利用した観測方法を組み込もうと計画しています。電波望遠鏡では1秒間に数メガビットから数ギガビットものデータが発生します。これを一気に伝送・処理することで世界最高の感度を達成、あるいは世界唯一の観測ネットワークを構築しようとして計画しています。

とはいえ、口径32mという大型の観測装置を改造して使用、あるいは全く例のない観測装置を自作するわけですから、その整備や調整だけでもなかなか大変です。まずは観測装置としての特性を入念に測定し、観測結果を科学的に意味あるものにしなければなりません。並行して末端の観測機器の整備やソフトウェア開発、観測システムとしての構築なども必要で、これらの作業に1年はかかりそうです。卒業研究にやってきた学生の皆さんも、電波天文学という華やかな響きとはずいぶん違う泥臭い作業に戸惑っている様子もあります。まるで1950年代の電波天文のような状態ですが、この一年の努力で一気に21世紀の最先端観測まで持っていきたいと意気込んでいるところです。

電話:(083)933-5673

E-mail : kenta@sci.yamaguchi-u.ac.jp

Homepage :

<http://www.sci.yamaguchi-u.ac.jp/phy/astro/index.html>

私の授業

私の授業



渡部 省二
教授
医学部保健学科

私は講義をする時には常に、かつて自分が学生だった頃に自分が受けた講義を頭に思い起こします。私は理学部生物学科の学生でしたが、生き物そのものについてはまったく何も知らず、昆虫採集だとか、植物採集というようなことは大嫌いでした。当時（1970年前後）はタンパク合成のメカニズムが解明されて間もない頃で、私は生化学を志していました。しかし生物学というのは生化学・分子生物学ばかりでなく動物分類学、植物分類学や生態学もあります。最初はあまり興味をもっていなかった分野でも先生の話しに引き込まれ、大変感銘を受けたことを記憶しています。もちろん志していた生化学・分子生物学関係の講義でも感動と興奮につつまれたものでした。さらに生物学科の講義だけでは有機化学の勉強が不足すると思い、化学科の有機化学の夜間の講義を聞きにいきましたが、ここでも先生の話に引き込まれ、単位としては必要ではないにもかかわらず、5時50分から夜9

時まで、週3回の講義を一年間おそらく一回も休まずに聞いた記憶があります。

このような学生に感動を与える講義というのはどこからくるのでしょうか。もちろん先生の個人的な魅力、話し方のうまさ、ということもあるでしょう。しかし、私が講義を聞いて感動した先生は必ずしも話し方がうまい雄弁な先生ばかりではなかったと思います。それでも講義に引かれたのは、おそらく先生自身が研究者であって、科学的発見というものにたいして驚きと感動を常に感じてきたからではないでしょうか。研究の困難さ、すでに出ているデータから予想されることが実験的に実証されたときの喜び、そして誰も知らない新しい科学的事実を発見した時の興奮と喜び、これらのことを体験してきた研究者であるから自然と話に熱がこもるのだと思います。

大学の授業と高等学校の授業の違いは、大学では教育者が同時に研究者であるということにあります。このことを教育に反映させることが重要でしょう。私が大学院に入学してから現在までの約30年間は組換えDNAテクニックによる分子生物学の全盛時代で、ついにヒトの全遺伝子の塩基配列を解明する時代になりました。その中で、私自身は、重箱の隅をほんの少しつつく程度のことしかできなかったかもしれませんが、ともかくもその生命科学研究の大きな流れの中に、当事者の一人としていたわけです。何とかしてこの驚きと感動を学生達に伝えたいといつも思っていますが、はたしてどこまでそれができているかはわかりません。

三つ子の魂、百まで、という諺がありますが、大学生は三つ子ではありませんが、学問の世界にはいつて最初の頃に出会った先生や体験したことというのは生涯記憶に残ります。目を輝かせて私の講義を聞いている学生をみると責任の重大さを感じさせられます。

読者の声

留学生からのメッセージ

A Different Japan

ワン
汪曙東
理工学博士前期課程 2年生
工学部感性デザイン工学科

Unlike most of the other Chinese students, I am from a very small place in China. When I tell my Japanese friends that I am from Shucheng County, Anhui Province of China, usually nobody knows where that is. Because I am from such a backward and small place. I knew almost nothing about Japan before I came here.

Before I came to Japan I thought Japan must be very crowded everywhere, not only big cities like Tokyo. Since such a large population lives on such small islands, I have imagined that every street, every shop must be full of people and people jostle each other in a crowd. But when I came to Ube, I surprisingly found that there are the streets were quiet with few people and there were not so many customers at the supermarkets. Even in the shuttle bus and the train, sometimes only two or three passengers! I heard Ube has a population of 170 thousand. Where are they? Are they hiding themselves?

Before I came to Japan I thought the whole land of Japan must have been used up for factories since Japan is the second largest economy in the world. Smoking chimneys and smog must be everywhere. Trees on the mountains must have been chopped down. The water in rivers must be dark and dirty because of pollution. Everybody must be packed in very tiny apartments. But when I came to Ube, I found in Ube, the mountains are green and covered with big trees. Sometimes wild animals appear on National Road190! Rivers are so clean that you can even see fishes and shrimps playing around in the water. Some people do live in small apartments, but many live in large houses that they own! Those two -story houses look very nice, just like some Chinese tycoon's villa. Are there so many rich Japanese?

Before I came to Japan, I thought Japanese must be very open-minded and extroverted since so many adult products (cartoons, videos, internet websites...etc) are legally made in Japan. I thought every Japanese must have his or her lover besides his or her own spouse; public kissing and hugging must be very common. But when I came, I found the situation was so different. Boys are shy. Girls are quiet. They usually talk to each other in a very low voice, which makes me doubt if they can hear each other. No loud noises in trains, buses, even shops. I never see any lovers kiss or hug in the campus, at train stations or any other public occasions. Also I never hear any loud and happy singing while Japanese are walking or working (unless they get drunk). In China, you can always hear spontaneous singing anytime anywhere, even at a boring professor's lecture. Can anybody tell me if Japanese are introverted or extroverted?

Before I came to Japan, I had a very sympathetic feeling for Japanese housewives. They don't work, so no income. Everything has to be from their husbands. Also they have to take care of children, doing a lot of hard houseworks every day. Because they don't work, so they can't update their knowledge about the outside world. What a life! Is living such a life meaningful? They just live for their husbands and children. They are miserable, aren't they?

But after I came to Japan, and talked to many housewives, I found that most of them enjoy their lives! They think working for their children and husbands is more important than working in a company. That is a different job. How nice it would be when the wife comfortably sits in a cafe shop drinking coffee and teasing her children while the husband is working very hard, soaked with perspiration at a factory! Isn't such a life happy?

Before I came to Japan, I thought Japanese university students must study and live in the same way as Chinese university students: too many courses, small and dirty dormitory rooms shared by more than 8 students with a public bath, and the school controlling when the light is turned on or off. Students must dine at school dinning hall for every meal: breakfast, lunch and supper. But Yamaguchi University in Japan, most of the students live alone in their own apartments outside of the campus outside of the campus. One person, one room with kitchen and bath. Students go shopping for food and cook by themselves. Everybody knows that shopping and cooking really take time. What is more, many Japanese students work part time. Some work every day. Do they have time to study?

There are many other things, which also make me think Japan is a foreign country. Even though to us Chinese, Japanese have the same skin color and the same cultural origination and use Kanji. To find out and experience cultural differences in a foreign country is very interesting. The more we find out and experience, the more we understand the people and the county, and the more we can do for developing friendship and global ideas among people.

人文学部異文化交流研究施設 秋の講演会のお知らせ

アイスランドの歴史と文化

講師：ラグナル・パルドルソン（在日アイスランド大使館参事官）

日時：2002年10月18日（金）

14時30分から16時

場所：大学会館2階会議室

2001年10月25日に開館したアイスランド大使館に勤務されているラグナル氏は、北京大学と東京大学で中国哲学を学び、95年にアイスランド外務省入省。在中国アイスランド大使館勤務を経て、現職に至っている。ヨーロッパの小国アイスランドは、日本ではあまり知られることはないが、捕鯨問題など日本と共通の関心事も少なくない。同時に、北極圏に位置し、白夜があるアイスランドの人々の生活は、日本からは想像できないことも多々あるだろう。

アイスランド語の詩人を父に持つ氏から、サガとアイスランド語、アイスランドの文化一般について、話して頂く予定である。

主 催：人 文 学 部 異 文 化 交 流 研 究 施 設

問い合わせ：山本真弓 （933）5242 または mayumi@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp

JSPS-NSF and RIKEN
Joint Workshop on Resonances
in Physics, Chemistry and Biology

Date : Dec. 18-20, 2002
Place : Shonan International Center
(Hayama, Japan)

Speakers : Y. Azuma, A. Bass, J. S. Cohen, A. Dalgarno,
 I. Fabrikant, C. Greene, Y. Hatano, T. Hyodo,
 Y. Itikawa, E. Kasai, M. Kimura, J. Macek,
 A. Orel, T. Ovlund, T. Rescigno, I. Shimamura,
 T. Sommerfeld, C. Surko, N. Toshima, Y. Yamazaki

Chairpersons: M. Kimura, Y. Yamazaki, I. Fabrikant and A. Dalgarno
Financial support: JSPS-NSF, RIKEN, Yamaguchi University

Contact to : Mineo Kimura (Yamaguchi Univ., Japan)
 mineo@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp
 Ilya I Fabrikant (Univ. of Nebraska, USA)
 iif@unlserve.unl.edu

12月18日ー20日、学振の日米セミナー研究の基金と米国科学財団の基金とで「日米セミナー」を葉山で行います。テーマは「物理、化学、生物における共鳴現象」です。主催者は:山大秀村肇生、東大山崎恭規(日本) Nebraska大 Fabrikant教授、Harvard大 Dalgarno教授(米国)です。

新聞掲載された山大・地域から見た山大

5月

- ◆超一流目指した6年間
—山口大— 広中学長が退官会見
(防長・読売・山口・日経・宇部・毎日・朝日:1日)
- ◆メディア規制について聞く
山口大経済学部教授 立山 紘毅さん
危うい国の情報管理 —報道の自由侵しかねぬ—
- ◆ベンチャー育成へ —山口大—
創業支援機構を設置 (毎日・山口・読売・防長・宇部:2日)
- ◆「知りたいやまぐち」 山口大農学部教授 糸原 義人氏
農業・農村4 医療費増食からの警鐘 (朝日:3日)
- ◆山口大エイト準決勝に進出 —朝日レガッター—
(朝日:5日)
- ◆中国など題材土曜市民講座
—山口大文学部受講生募集— (中国:4日)
- ◆産学連携こそ生きる道 —九州・山口の国立大—
企業と共同研究の3割増 713件目立つ地域密着 (西日本:5日)
- ◆“大学淘汰”に危機感
企業との共同研究増加 (西日本:5日)
- ◆今この人 月曜インタビュー
山口大学長を退任する 広中 平祐さん (西日本:6日)
- ◆工学部本館前に野外彫刻
土木和会の30周年記念喜びの除幕式 (宇部時報:8日)
- ◆7月から新ユニホーム着用
新旧“天使”が患者々と交流 (宇部:9日)
- ◆30年以上の研究を披露
16日付で山大学長へー加藤医学部長が最終講義— (宇部:10日)
- ◆～高齢者やストレスの多い働き盛りの人の“現代病”～
「不整脈」の実態と治療について語る
山口大学医学部教授 清水 昭彦氏 (朝日:10日)
- ◆宇宙物理学を共同研究へ —山口大と文科省国立天文台—
仁保のアンテナを改良 (朝日:11日)
- ◆山大留学生に新品自転車
県国際交流協など37台プレゼント (山口:11日)
- ◆広中学長送別会住民が主催
「開かれた山大」芽ぶく (中国:12日)
- ◆超一流を目指して 山口大・広中平祐学長の6年
「チャレンジ精神」学生の試み表彰で刺激 (中国:13日)
- ◆「異常なわき水はがけ崩れの危険」工学部の山本教授
東岐波の自治会で出前講義 (宇部:13日)
- ◆学生よ「未来を信じて」 —山口大学—
広中学長が最終講演 (山口・毎日:15日)
- ◆広中学長が退任あいさつ
—山大に勤務6年間、「楽しい思い出」—
「未来を信じたら変わる」 (防長・読売・山口・毎日・朝日・中国:16日)
- ◆大学院VBを育成 —山口大—
学長直轄の組織設置 (日経:15日)
- ◆「世界に通じる大学に」 加藤山大学長
文科省で辞令交付 (山口:17日)
- ◆オフィスアワー(研究室)
山口大文学部教授 添田 健治郎氏
方言 アクセント変化分析 (朝日:17日)
- ◆「起業に賛成」96%
山口大全学ぶ教員にアンケート (朝日:18日)
- ◆現代やまぐち社会論20日開講
JR徳山駅ビルで山大人文学部 (山口:18日)
- ◆フレンドシップ事業 —山大と阿東の生雲小—
最終年度がスタート (山口:20日)
- ◆山大生ら3団体がNPO申請
農業支援 リサイクル ネット映像発信 8月下旬にも認証
(読売:18日)
- ◆山口大 企業と特許出現
技術移転機関 TLOの研究 (日経:20日)
- ◆山口大・加藤新学長が着任あいさつ
「トップ大学」目標に
(宇部:20日、山口・毎日・読売・朝日・西日本・:21日)
- ◆土砂災害防止法 認知度低く

- 山口大教授、自然災害調査 (日経:22日)
- ◆山口大・加藤新学長に聞く
地域文化生かし教育 (宇部:22日、中国:23日)
- ◆曖昧規定は白紙委員へ —山口大教授 額綱 厚氏—
罰則は総動員法と同質 (中日:23日)
- ◆山大医学部でテロ対策訓練 (毎日:22日)
- ◆オフィスアワー —山口大教育学部教授 林 徳治氏—
情報教育 社会生き抜く力育成 (朝日:24日)
- ◆やまぐち産業振興財団
理事長に広中前山大学長 (毎日・朝日・中国・山口:24日)
- ◆インタビュー 額綱 厚氏に聞く『有事法制とは何か』
“国家改造計画”を断る (図書新聞:25日)
- ◆変わる大学 —新教育の森やまぐち—
国立大法人化 問われる存在意義 (毎日:29日)
- ◆オフィスアワー —山口大工学部教授 小倉 興太郎氏—
「光合成」 二酸化炭素を資源に (朝日:31日)

6月

- ◆山口大、TOEIC導入 —今年度から—
300点以上卒業条件 (朝日:2日)
- ◆災害研究成果 住民に還元
山大・山本教授 宇部で出前講義 (朝日:4日)
- ◆山大教官アンケート
「研究の起業化を」6割 (毎日:5日)
- ◆阪神大震災、怖さ薄れた? 山大学長が全国自治会長調査
防災意識「最近低い」51% (読売:6日)
- ◆経済まひ“総動員”体制 —山口大教授 額綱 厚氏—
「その時国民は」有事法制を聞く (東京6日)
- ◆オフィスアワー —山口大医学部教授 岡 正朗氏—
医工連携 新器具の開発進める (朝日:7日)
- ◆今この人 月曜インタビュー
全国の自治会長の自然災害への意識調査をした山口大
教授 山本 哲郎さん (西日本:10日)
- ◆岩国高にセンター試験場 —山口大—
来年から東部受験生の負担軽減
(山口:11日、防長:13日、朝日・読売:12日、毎日:14日)
- ◆「役所」か柱穴跡発見
山口大の吉田遺跡 奈良—平安期
(朝日・西日本・山口:13日)
- ◆オフィスアワー —山口大理学部助教授 山崎 鈴子氏—
光触媒 汚染物質浄化に知恵 (朝日:14日)
- ◆「山大教育学部 存続を」 山口市でフォーラム
関係者ら250人参加
(毎日・中国・山口・西日本・読売・朝日:16日)
- ◆県と山口大スクラム
大学の知的財産 行政が効率活用へ (朝日:18日)
- ◆山口大が独法化準備委
中期目標来春めどに策定 (中国:19日)
- ◆競争の時代に やまぐち大学事情 —山口大—
法人化にらみ組織強化 (朝日:20日)
- ◆山大留学生センター 交流の輪拡大にひと役
工学部の宇部分室 日本語や文化の習得に懸命 (宇部:20日)
- ◆オフィスアワー —山口大経済学部助教授 マルク・レール氏—
マスメディア 新聞通し日本を研究 (朝日:21日)
- ◆田浦氏が山大新農学部長に
(山口・西日本・朝日:21日、防長:22日)
- ◆山口大が運営諮問会議開く
第二期初会合 (読売・朝日・山口・中国・防長:22日)
- ◆閉鎖的な大学、威厳に満ちた学長の時代は終わった
山口大の第11代学長に就任 加藤 紘さん
(宇部時報:21日)
- ◆変わる大学 —新教育の森 やまぐち—
個性化で序列打破を 数理学振興会広中 平祐理事長
(毎日:26日)
- ◆来月5日日韓シンポ —山大—
(山口:28日)

公開講座のお知らせ

講 座 名	開設期間	受講対象者	開催会場	問 合 せ 先
保 育 材 実 習	8月1日(木) 8月2日(金)	保育園教諭 保育士	山口大学 教育学部 405室 演習室	山口大学教育学部庶務係 TEL 083-933-5300 住所 山口市大字吉田1677-1 (募集期間7月1日～7月26日)
動物のいる楽しい暮らし ～チョット専門的な 動物のお話～	8月17日(土) 8月31日(土)	市民一般 学 生	ぱるるプラザ 山口小会議室	山口大学農学部研究協力係 TEL 083-933-5810 住所 山口市大字吉田1677-1 (募集期間7月15日～8月10日)
理 科 実 験 講 座	8月5日(月) 8月6日(火)	小学校教諭 中学校教諭	山口大学 教育学部 25番教室	山口大学教育学部庶務係 TEL 083-933-5300 住所 山口市大字吉田1677-1 (募集期間7月1日～7月22日)
木 工 入 門	8月23日(金) 8月25日(日)	市民一般	山口大学 教育学部 木工加工 実 験 室	山口大学教育学部庶務係 TEL 083-933-5300 住所 山口市大字吉田1677-1 (募集期間7月1日～8月20日)
ヒューマンスクール 宗 教 と 文 化	10月2日(水) 12月11日(水)	市民一般	山口大学 教育学部 22番教室	山口大学教育学部庶務係 TEL 083-933-5300 住所 山口市大字吉田1677-1 (募集期間9月1日～9月18日)
わが国の構造改革を問う	10月3日(木) 11月7日(木)	市民一般	山口大学 経済学部 B棟202	山口大学経済学部庶務係 TEL 083-933-5500 住所 山口市大字吉田1677-1 (募集期間9月2日～9月19日)
外国語学習コース(ドイツ語) 「グリム童話を最終版と 初版で読む」	10月5日(土) 12月7日(土) [毎週土曜日開講]	市民一般 学 生	山口大学 人文学部 講 義 室	山口大学人文・理学部庶務係 TEL 083-933-5200 住所 山口市大字吉田1677-1 (募集期間4月上旬～10月4日)
日 本 文 化 コ ー ス 「あなたの言葉にわたしの ことばを見つめる」	10月5日(土) 12月14日(土) [毎週土曜日開講]	市民一般 学 生	山口大学 人文学部 講 義 室	山口大学人文・理学部庶務係 TEL 083-933-5200 住所 山口市大字吉田1677-1 (募集期間4月上旬～10月4日)
やまぐち学コース 「近世の山口」	10月5日(土) 10月26日(土) [毎週土曜日開講]	市民一般 学 生	山口大学 人文学部 講 義 室	山口大学人文・理学部庶務係 TEL 083-933-5200 住所 山口市大字吉田1677-1 (募集期間4月上旬～10月4日)
失業問題の多面的検討	11月14日(木) 12月19日(木)	市民一般	山口大学 経済学部 B棟202	山口大学経済学部庶務係 TEL 083-933-5500 住所 山口市大字吉田1677-1 (募集期間10月11日～10月31日)
地域の福祉事業と マ ネ ジ メ ン ト	10月 (詳細は未定)	市民一般	未 定	山口大学経済学部庶務係 TEL 083-933-5500 住所 山口市大字吉田1677-1 (募集期間9月詳細は未定)
ロボットのしくみを知って 動 か し て み よ う	10月26日(土)	中・高校生 及び市民一般	山口大学 工学部 機械・社建棟講義室 及びセミナー室	山口大学工学部総務係 TEL 0836-85-9003 住所 宇部市常盤台2丁目16-1 (募集期間9月詳細は未定)

原稿をお寄せ下さい

広報誌は、学内だけでなく、山口県内の高校以上の教育機関、地方自治体及び主として、中国・四国地区の企業等学外の約500の機関に配布します。

ア. Q&A欄について

山口大学についての質問をお寄せください。質問は、お名前、所属、職(学生の場合は学年)、年齢を付して文書でお願いします。Q&A欄に採用させていただくときは、字数などの関係で文章を一部修正させていただくことがありますのでご了承ください。学外からの質問を歓迎します。

イ. 催し物について

公開講座、学会、研究会等の開催計画がありましたら、日時、場所、名称、責任者氏名、所属、電話番号などをお知らせください。

ウ. 「私の授業」「私の研究」「国際交流」「山口大学の将来についての提言」など

「私の授業」「私の研究」では、日頃おやりになっていることを、高校生にもわかるように、やさしく述べていただければと存じます。また、昨今、大学の将来についての関心が高くなっています。そこで、山口大学の将来のあるべき姿について、学内外から原稿をいただければ幸いです。建設的なご意見を期待します。

【執筆要領】

上記ウについて、執筆要領は次のとおりです。

1. 原稿(図、表を含む。)は40字×40行で、できるだけワープロでお願いします。第1行は題名、2行目は氏名、所属部局名、研究室あるいは講座名、職、本文は4行目から始めてください。本文は3～4に区分し、小見出しをつけてください。

読者が連絡や質問をされる場合に便利かと思うしますので、お差し支えなければ、原稿の末尾に研究室などの電話番号を括弧書きにしてください。

原稿は次の枠内のような形になります。

ワープロを用いない場合は、400字詰原稿用紙4枚以内で、ワープロの場合の要領に準じてお願いします。

ワープロで原稿を作成された場合、お差し支えなければ原稿と一緒にフロッピーをお貸しいただければ幸甚に存じます。

第1行 題名
第2行 氏名、所属部局名、研究室名、職
第3行 (空白)
第4行 本文始まり
.
.
第40行 本文終わり
(TEL _____)

2. ご自分が写っている写真を一枚と本文に関連する写真も添付してください。研究や授業の場面の写真を歓迎します。

原稿には締切期限を設けません。適宜、下記までお送りください。そのほか、種々の問い合わせも下記まで。また、原稿はE-mailで送っていただいても結構です。

〒753-8511

山口市吉田1677-1

山口大学総務課 広報室

広報・調査係長 有吉義和

☎083-933-5007 FAX083-933-5013

E-mail:SH011@office.cc.yamaguchi-u.ac.jp

訂正文

YU61号(5月号)目次文中の執筆名「河崎 勝」助教授は「川崎 勝」助教授の誤りでした。また、10頁の「☎&FAX0836-22-3747」は「☎&FAX0836-85-3747」の誤りでした。

6頁の「何 暁毅 助教授 経済学部 国際経済学科 大学教育センター教育評価部」は「何 暁毅 助教授 大学教育センター教育評価部」の誤りでした。

各執筆者の方には訂正して深くお詫びいたします。

編集後記

狂牛病、産地偽装等の問題は、隣の火事でしょうか？「安心・安全」を疑わなければならなくなりました。国公立大学に対する「安全・安心」は大丈夫でしょうか？国公立大学が様変わりしようとしています。AO入試に始まり、編入学試験、大学センター入試、前期入試、後期入試という多様な機会が用意され、多様な学生が入学してきます。「粒ぞろい」という安心は、過去のよき時代のものかもしれません。社会ニーズに応じて、教養と専門知識を備えた即戦力のある山口大学卒というブランドを高めるには、その品質を保証するための画一的な教育だけでなく、潜在する能力と感性を引き出し、今の能力を一層引伸ばす（できる人の能力をさらに伸ばす）、という学生のニーズに合った教育が求められます。

本号は、入学時の期待を裏切らない、それ以前に山口大学が受験する大学として選択されるためにも、山口大学の「よさ」を正しく理解して貰える情報を発信する特集を企画しました。それは、受験生がよく考えた上、「山口大学を受験したい、受験します」と言った時、父さん、母さん、進学指導教官を安心させられる「山口大学の教育の良さ、安心できる教育」の説明ができることかもしれません。情報不十分と感じられる方、山口大学ホームページを入り口にして必要な情報を検索し、関係部局に質問等をお寄せ下さい。（宇佐見晃一）

◎山口大学ホームページhttp://www.yamaguchi-u.ac.jp/index_j.html